

博士課程教育リーディングプログラム  
平成24年度採択プログラム中間評価  
アンケート調査結果

調査結果報告

平成28年2月

独立行政法人日本学術振興会

博士課程教育リーディングプログラム委員会事務局

## まえがき

日本学術振興会は文部科学省からの委託を受けて「博士課程教育リーディングプログラム」の審査・評価等を実施している。平成 24 年度においては、各大学からの申請を審査し、24 プログラムを採択した。当該プログラムが 4 年目となる平成 27 年度の中間評価において、各プログラムにおける進捗状況を客観的に評価するための評価資料として、各プログラムに選抜された学生と、プログラム担当者に対して平成 27 年 5 月から 6 月にかけてアンケート調査を行った。本報告でその概要を示すものである。

参考：実施概要

アンケート実施期間：平成 27 年 5 月 11 日（月）～6 月 1 日（月）\*

\* 5 月 28 日（木）締切を 6 月 1 日（月）まで延長して実施

アンケート対象学生：

1. 抽出条件

採択プログラムに選抜された学生のうち、平成 26 年度末までにプログラムに入学（編入も含む）した学生で、且つ現在（アンケート実施時点）も在籍している全学生

2. 対象者数

975 名

3. 回答者数

940 名（回答率 96.4%）

アンケート対象プログラム担当者：

1. 条件

平成 27 年 4 月 1 日現在の全プログラム担当者（ただし、同日付けで新たに担当者となった者を除く）のうち 3 割程度（対象者は博士課程教育リーディングプログラム事務局にて無作為に抽出）

2. 対象者数

362 名

3. 回答者数

291 名（回答率 80.4%）

## 目次

まえがき .....	1
目次 .....	2
第1部 学生アンケート調査結果 .....	5
1. プログラムへの参加動機（問6-1） .....	5
2. プログラムがなかった場合の最終学位（問6-2） .....	6
3. プログラムで受けた指導（問7） .....	7
4. 環境の整備と有効性（問8A） .....	8
5. 経験の有無と有効性（問8B） .....	9
6. 身に付いた能力（問9） .....	10
7. プログラムへの評価（問10） .....	14
8. プログラムの効果・負担（問11） .....	15
9. 修了後の進路（問12） .....	16
10. 学生の属性（問2, 3, 4, 5） .....	18
11. プログラム情報の獲得方法（問16） .....	21
第2部 プログラム担当者アンケート調査結果 .....	22
1. プログラムへの関与（問3） .....	22
2. 指導の内容（問5） .....	23
3. 実施されたプログラムと整備された環境（問6） .....	24
4. プログラムの有効性（問7） .....	25
5. 運営・管理（問8） .....	26
6. プログラムに対する印象（問9） .....	27
7. 指導・支援の改善のための評価等の実施（問10） .....	28
8. 学生への効果・負担（問11） .....	28
9. 参加教員の属性（問2, 3, 4） .....	29
附録A サンプルと回答者数 .....	32
附録B 学生アンケート調査と単純集計結果 .....	33
附録C プログラム担当者アンケート調査と単純集計結果 .....	43

【参考：学生とプログラム担当者の設問の比較】

以下の設問については、学生とプログラム担当者へ同じ質問をしています。参考までに対応する設問の一覧を示します。

学生		プログラム担当者	
問7	<p><b>【3. プログラムで受けた指導】</b> このプログラムで、下のような指導を受けましたか。また受けた場合、それは有効ですか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導教員以外の教員からの指導</li> <li>・企業、政府機関など学外者からの指導、助言</li> <li>・主専攻以外の分野の授業等の履修</li> <li>・研究室ローテーション</li> <li>・プロジェクト形式による授業や課題</li> <li>・メンター等による授業外のサポート</li> <li>・産業界、官界、NPO、国際機関など、教育研究機関以外へのキャリアパス具体化のための情報提供</li> </ul>	問5	<p><b>【2. 指導の内容】</b> このプログラムで、先生は下のような指導が行われていますか。また、行っている場合はそれは有効ですか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導学生以外の学生への指導</li> <li>・主専攻以外の分野の学生を対象とした授業等</li> <li>・研究室ローテーションの受け入れ</li> <li>・プロジェクト形式による授業や課題</li> <li>・メンター等としての授業外のサポート</li> </ul>
問8A	<p><b>【4. 環境の整備と有効性】</b> このプログラムで、下のようなことは整備され、経験していますか。またそれは有効に機能していますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励金等大学からの金銭的支援</li> <li>・異分野の学生間で切磋琢磨できる環境</li> <li>・外国人、職業人など、通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会</li> </ul>	問6	<p><b>【3. 実施されたプログラムと整備された環境】</b> このプログラムで、下のようなことは実施、あるいは整備されていますか。また1～3を選択した場合、それは有効に機能していますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業、政府機関など学外者からの指導</li> <li>・産業界、官界、NPO、国際機関など、教育研究機関以外へのキャリアパス具体化のための情報提供</li> <li>・奨励金等大学からの金銭的支援</li> <li>・異分野の学生間で切磋琢磨できる環境</li> <li>・外国人、職業人など、通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会</li> <li>・国内の民間企業又は官庁、国際機関等へのインターンシップ（1月以上）</li> <li>・海外の民間企業又は官庁、国際機関等へのインターンシップ（1月以上）</li> <li>・本プログラムの中での留学</li> </ul>
問8B	<p><b>【5. 経験の有無と有効性】</b> このプログラムの枠によって、下のことを経験しましたか、また経験した場合それは有効でしたか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内の民間企業又は官庁、国際機関等へのインターンシップ（1月以上）</li> <li>・海外の民間企業又は官庁、国際機関等へのインターンシップ（1月以上）</li> <li>・本プログラムの中での留学（3ヶ月未満）</li> <li>・本プログラムの中での留学（3ヶ月以上1年未満）</li> <li>・本プログラムの中での留学（1年以上）</li> </ul>		

<p>問 9</p>	<p><b>【6. 身に付いた能力】</b> このプログラムによって、下のような能力は身に付いたと思いますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な専門的知識・研究能力</li> <li>・高い国際性</li> <li>・専門以外の分野の幅広い知識</li> <li>・物事を俯瞰し本質を見抜く力</li> <li>・自ら課題を発見し解決に挑む力</li> <li>・独創的な能力</li> <li>・チームのマネジメント力</li> <li>・企画立案、関係者との調整、統率する能力</li> <li>・他者と協働する力</li> </ul>	<p><b>【4. プログラムの有効性】</b> このプログラムは、学生に以下のような資質を身につけさせるのに、どの程度有効ですか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な専門的知識・研究能力</li> <li>・高い国際性</li> <li>・専門以外の分野の幅広い知識</li> <li>・物事を俯瞰し本質を見抜く力</li> <li>・自ら課題を発見し解決に挑む力</li> <li>・独創的な能力</li> <li>・チームのマネジメント力</li> <li>・企画立案、関係者との調整、統率する能力</li> <li>・他者と協働する力</li> </ul>
<p>問 10</p>	<p><b>【7. プログラムへの評価】</b> 以下のような点について、どう考えていますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムに参加する教員の間でプログラムについての理解が共有されている</li> <li>・一部の教員に負担が集中している</li> <li>・指導教員や研究室スタッフを含め、プログラムに参加していない教員等はプログラムの目的を理解し、あなたがプログラムに参加することに協力的である</li> <li>・学術研究だけではなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を作り出す可能性が大きい</li> <li>・後輩にもこのプログラムを勧めたい</li> </ul>	<p><b>【6. プログラムに対する印象】</b> 以下の点について、どう考えられていますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム担当者間でのプログラムについての理解の共有ができています</li> <li>・一部の教員に負担が集中している</li> <li>・プログラム担当者以外の教員の理解があり、協力的である</li> <li>・大学の執行部が、プログラムの目的を理解し、協力的である</li> <li>・優秀な学生が多数入学している</li> <li>・今後優秀な学生をより多く獲得できる</li> <li>・学生はプログラムの意図を良く理解している</li> <li>・学生にとって、将来の進路が明確になっている</li> <li>・学術研究だけではなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を作り出す見込みがある</li> <li>・このプログラムによって、大学院制度の改善に大きな示唆が得られている</li> <li>・このプログラムが補助期間終了後も大学の独自財源により持続的に運営される見通しがある</li> <li>・これから進学を考えている学生にこのプログラムを勧めたい</li> </ul>
<p>問 11</p>	<p><b>【8. プログラムの効果・負担】</b> 以下のような点について、どう考えていますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このプログラムによって自身の研究に新たな示唆・知見が得られた（得られそうである）</li> <li>・所属研究室での指導と、このプログラムでの指導が二重負担になっている</li> <li>・所属研究室において、自分の専門的な研究を進めて、業績を上げられるか不安がある</li> <li>・修了後の進路に不安がある</li> </ul>	<p><b>【8. 学生への効果・負担】</b> 以下の点について、どう考えられていますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このプログラムによって学生自身の研究に新たな示唆・知見が得られる（得られそうである）</li> <li>・学生にとって、所属研究室での指導と、このプログラムでの指導が二重負担になっている</li> <li>・プログラムに参画している学生は所属研究室において専門的な研究を進めて、業績を上げられるか懸念がある</li> <li>・学生の将来の進路に不安がある</li> </ul>

## 第1部 学生アンケート調査結果

### 1. プログラムへの参加動機（問6-1）

学生にこのプログラムへの参加動機について、あてはまるもの全て（図1）と、その中で最も直接的な動機に近いもの（図2）について聞いている。

プログラムへの参加動機について、「経済的な支援が充実している」、「通常の博士課程では得られない、幅広い知識や経験が得られる」と回答した学生は8割を超えており、それに続いて「留学や海外インターンシップなど、海外での経験が積める」、「プログラムの目的と自分の目指す将来像が合っている」、「他の研究科(専攻)の学生や教員、留学生など、交流の幅が広がる」という回答となっている。

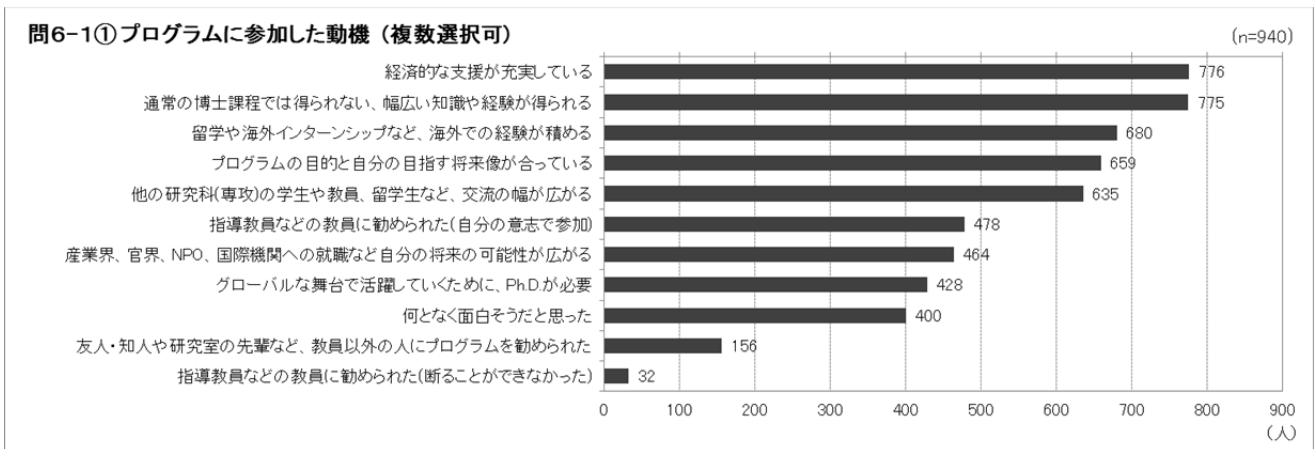


図1 プログラムへの参加動機（複数選択可）(n=940)

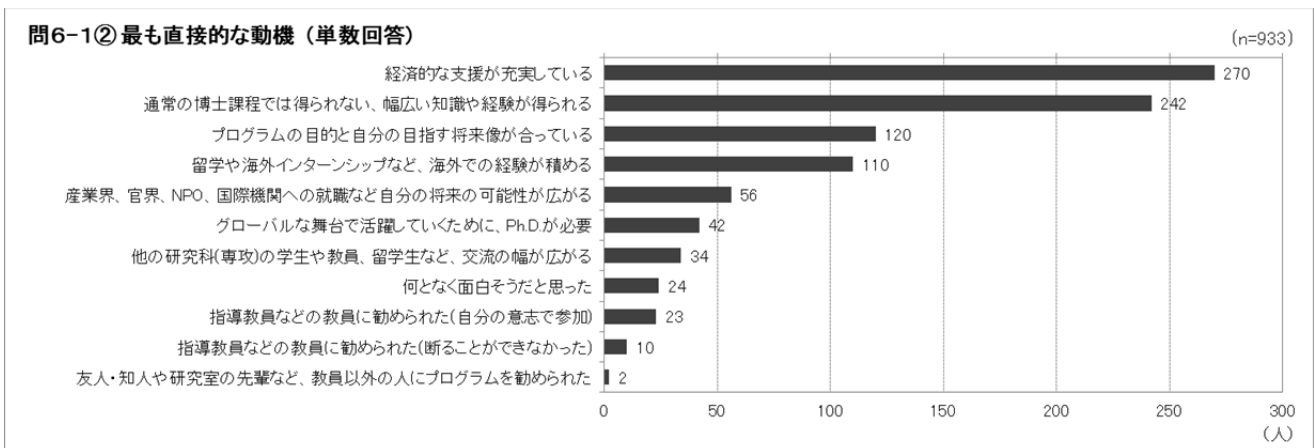


図2 最も直接的な動機（単数回答）(n=933)

## 2. プログラムがなかった場合の最終学位（問6-2）

学生にこのプログラムがなかった場合、どの最終学位を選択していたかについて聞いている（図3）。

プログラムがなかった場合の最終学位については、約4割弱の学生が「修士」と回答しており、本プログラムを契機として博士の学位取得を決意した学生が相当程度いたことがうかがえる。

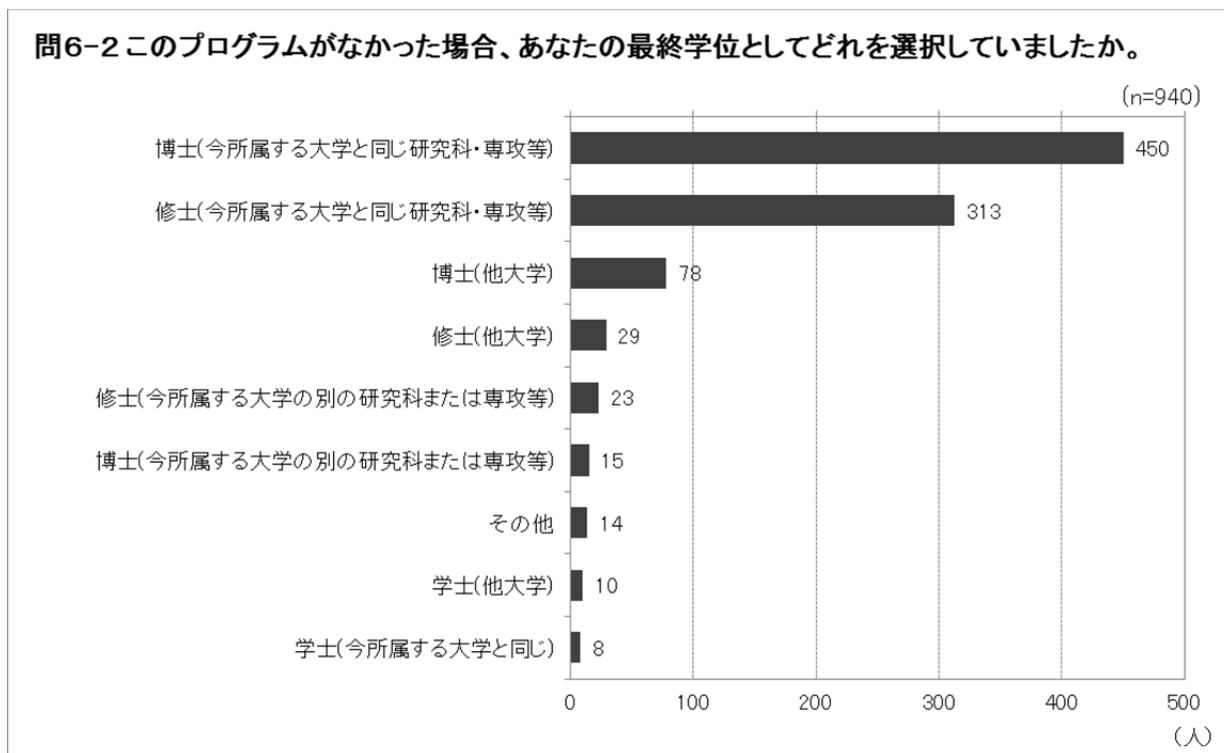


図3 プログラムがなかった場合の最終学位（n=940）

### 3. プログラムで受けた指導（問7）

学生にこのプログラムについて、どのような指導をどの程度受けたか（図4）、また受けた指導は、それが有効であったか（図5）、を聞いている。

ほとんどの学生が「主専攻以外の分野の授業等の履修」や「指導教員以外の教員からの指導」を経験している。また、経験した学生が比較的少ない「研究室ローテーション」や「企業、政府機関など学外者からの指導、助言」、「メンター等による授業外のサポート」なども含め、いずれの取組についてもそれらを経験した学生は半数程度が「有効」と考えており、「ある程度有効」と考える学生も合わせると、約9割以上の学生が各取組を有効なものとして捉えている。

#### 指導の内容

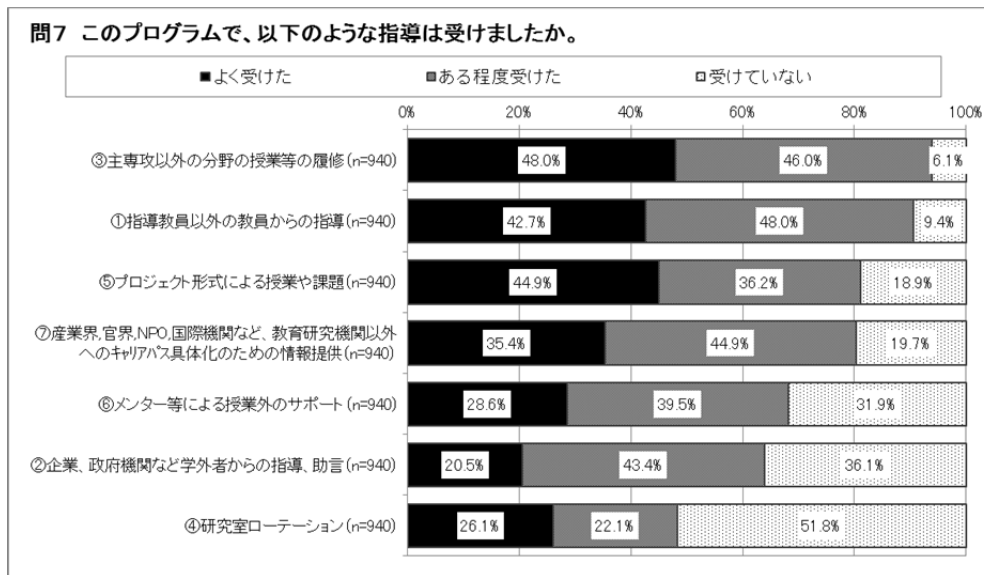


図4 プログラムで受けた指導 (n=940)

#### 受けた指導の有効性

< 「よく受けた」「ある程度受けた」を選択した場合のみ回答 >

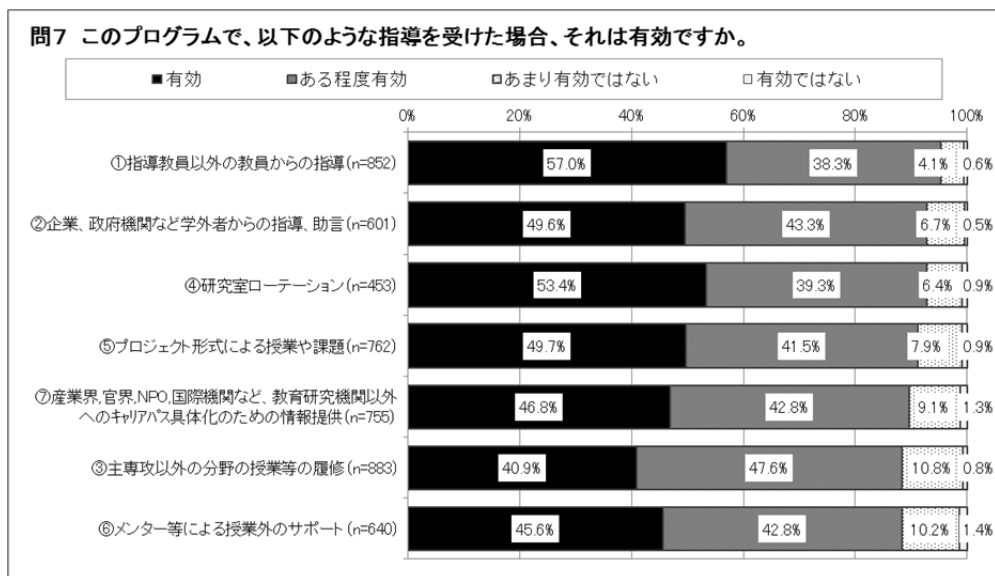


図5 指導を受けた場合の有効性



#### 4. 環境の整備と有効性（問8A）

学生に研究やプログラムの活動に専念するためにどのような環境が整備され経験しているか（図6）、それが有効に機能しているか（図7）、について聞いている。

「奨励金等大学からの金銭的支援」についてはほぼ全ての学生が、十分またはある程度整備され、また有効に機能していると考えている。「異分野の学生間で切磋琢磨できる環境」や「外国人、職業人など、通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会」などについても、整備状況や有効性について肯定的な評価が多数を占めている。

#### プログラムで整備された環境

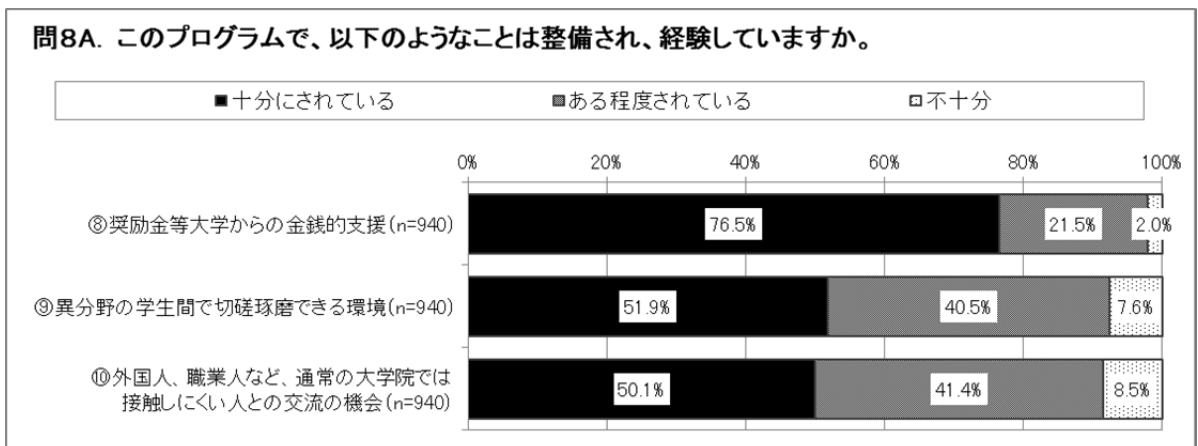


図6 プログラムで整備された環境（n=940）

#### 整備された環境の有効性

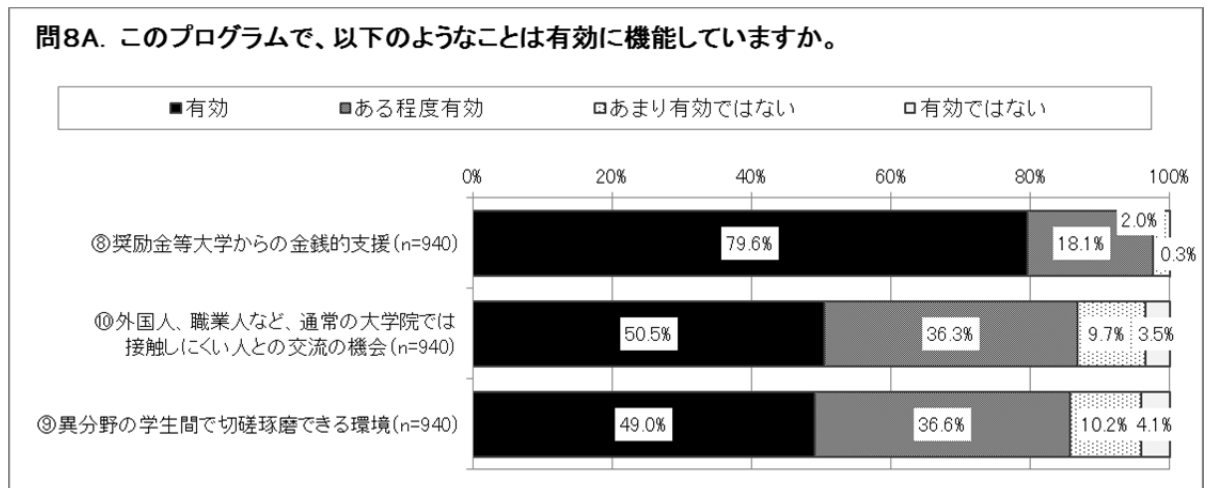


図7 整備された環境の有効性（n=940）

## 5. 経験の有無と有効性（問8B）

プログラムで用意された活動に参加したか（図8）、それが有効に機能しているか（図9）について聞いている。

「本プログラムの中での留学」や「国内外の民間企業又は官庁、国際機関等へのインターンシップ」については、参加した学生の8割以上が「有効」と考え、「ある程度有効」と合わせれば全ての学生がその有効性を評価しているが、「国内外の民間企業又は官庁、国際機関等へのインターンシップ（1月以上）」および「本プログラムの中での留学（3ヶ月未満）」について、「参加した」と「これから参加」の回答を合わせると半数程度に止まっている。

### プログラムでの経験

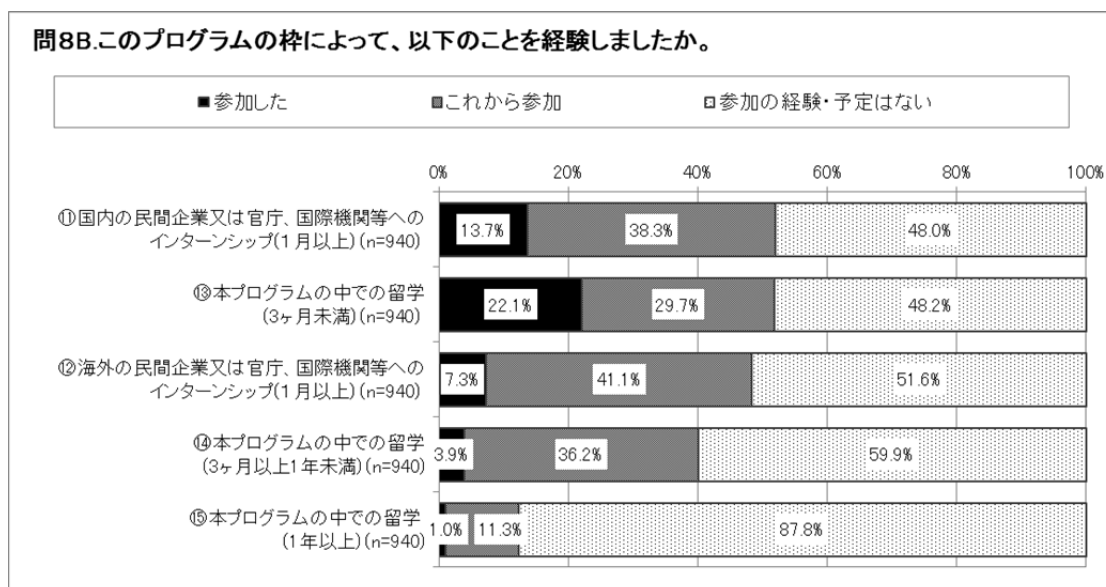


図8 プログラムでの経験 (n=940)

### 経験の有効性

< 「参加した」を選択した場合のみ回答 >

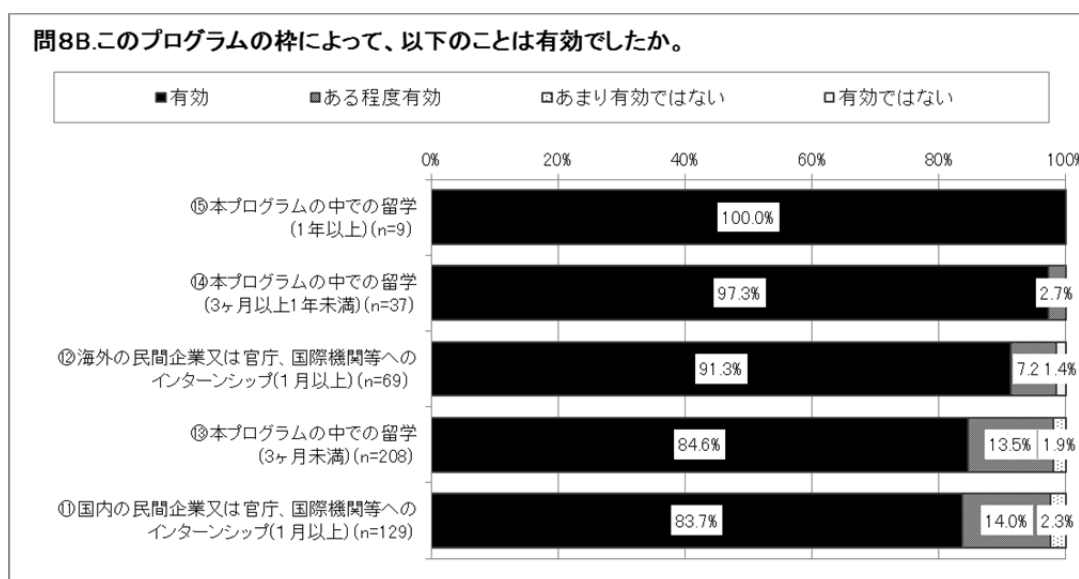


図9 プログラムでの経験の有効性

## 6. 身に付いた能力（問9）

学生にプログラムに参画することにより身に付いた能力（図10）、またそれがどのような活動によって身に付いたかを聞いている（図11～図19）。

学生の最も多くが身に付いたと考えている能力は「専門以外の分野の幅広い知識」であり、次いで「他者と協働する力」、「自ら課題を発見し解決に挑む力」となった。また各能力を身に付けるために、「プロジェクト形式による授業や課題」が寄与したとして最も多く挙げられた。「チームのマネジメント力」、「企画立案、関係者との調整、統率する能力」「独創的な能力」が身に付いたと考える学生は7割に満たないが、これらの能力獲得についても「プロジェクト形式による授業や課題」が寄与したと考える学生が約半数に上っている。

### 身に付いた能力

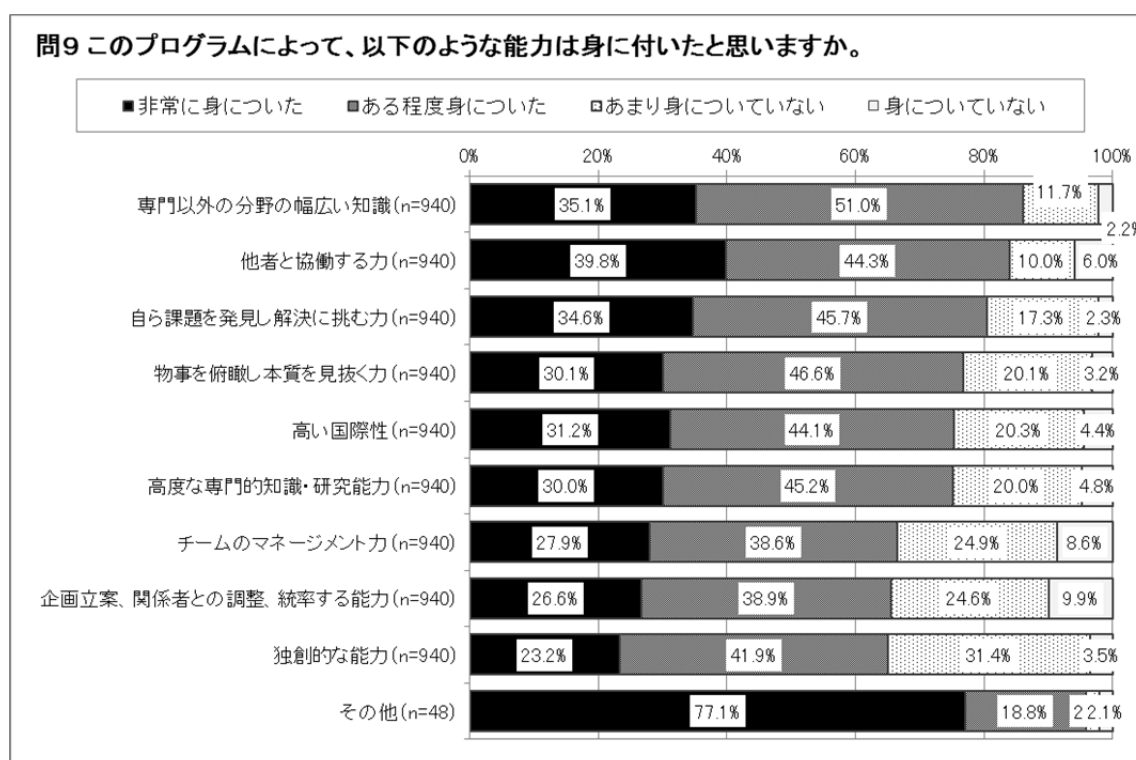


図10 プログラムによって身に付いた能力 (n=940)

## 能力を身に付けるために寄与したプログラムの活動

上記の身に付いた能力のうち、「非常に身に付いた」「ある程度身に付いた」を選択した学生がどのような活動によって身に付いたかを聞いている。

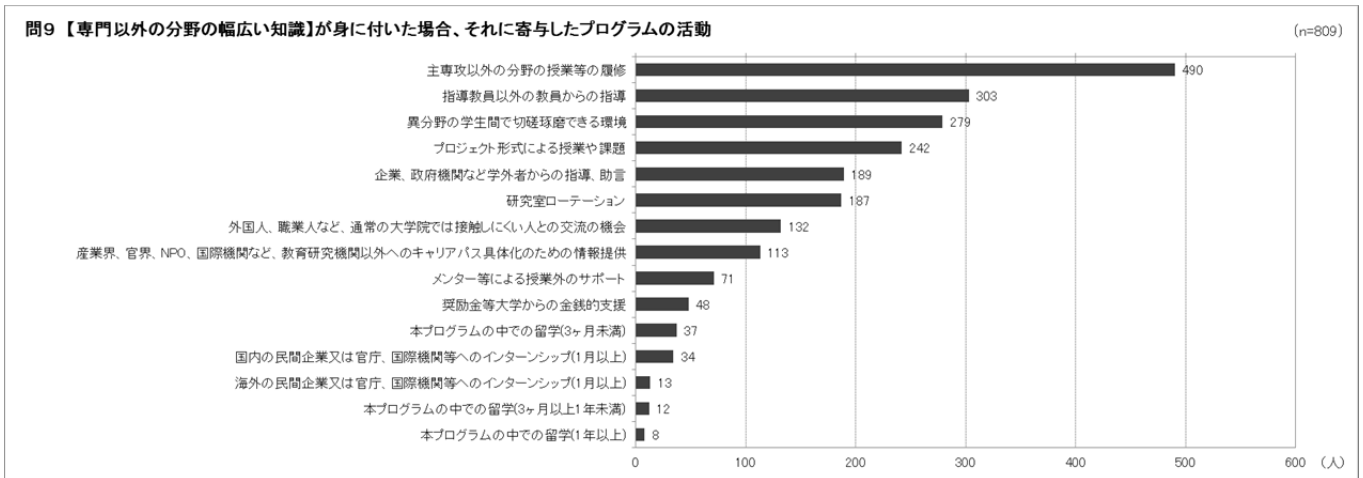


図 1 1 「専門以外の分野の幅広い知識」を身に付けるのに寄与したプログラムの活動 (n=809)

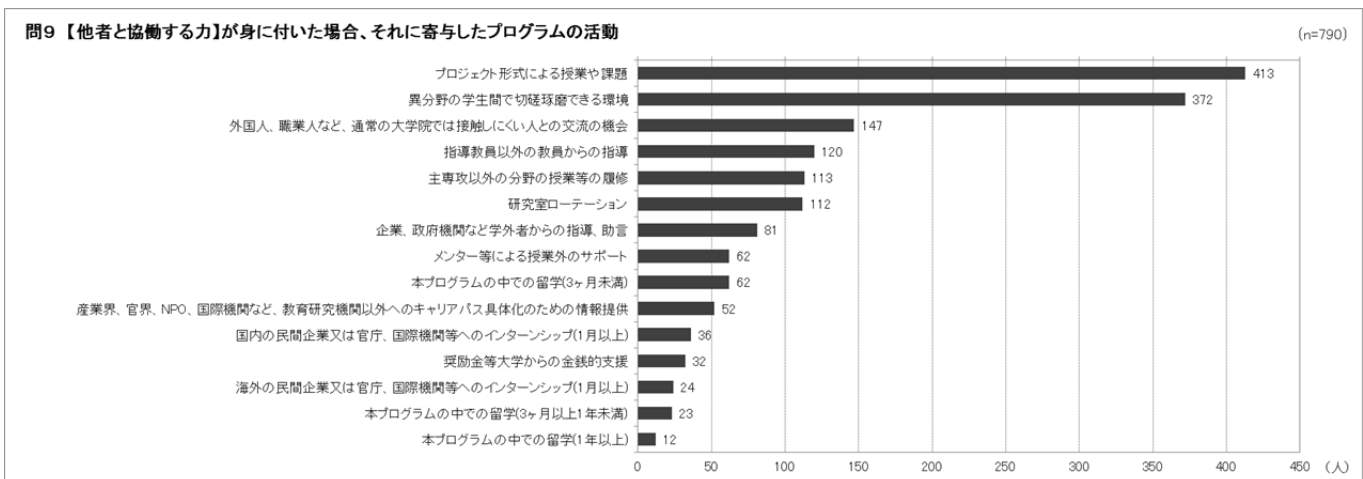


図 1 2 「他者と協働する力」を身に付けるのに寄与したプログラムの活動 (n=790)

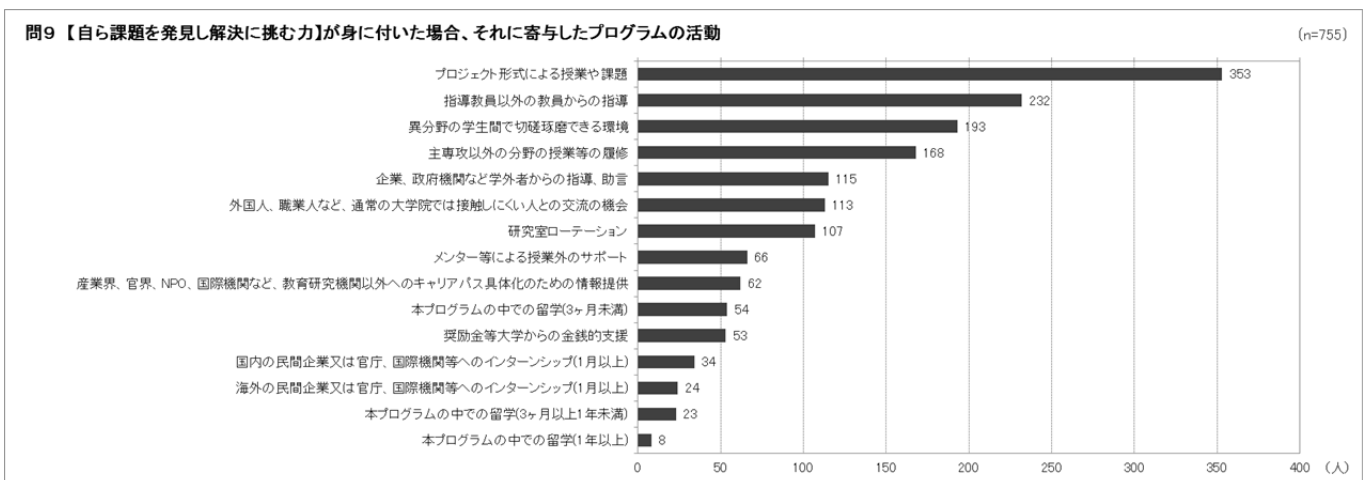


図 1 3 「自ら課題を発見し解決に挑む力」を身に付けるのに寄与したプログラムの活動 (n=755)

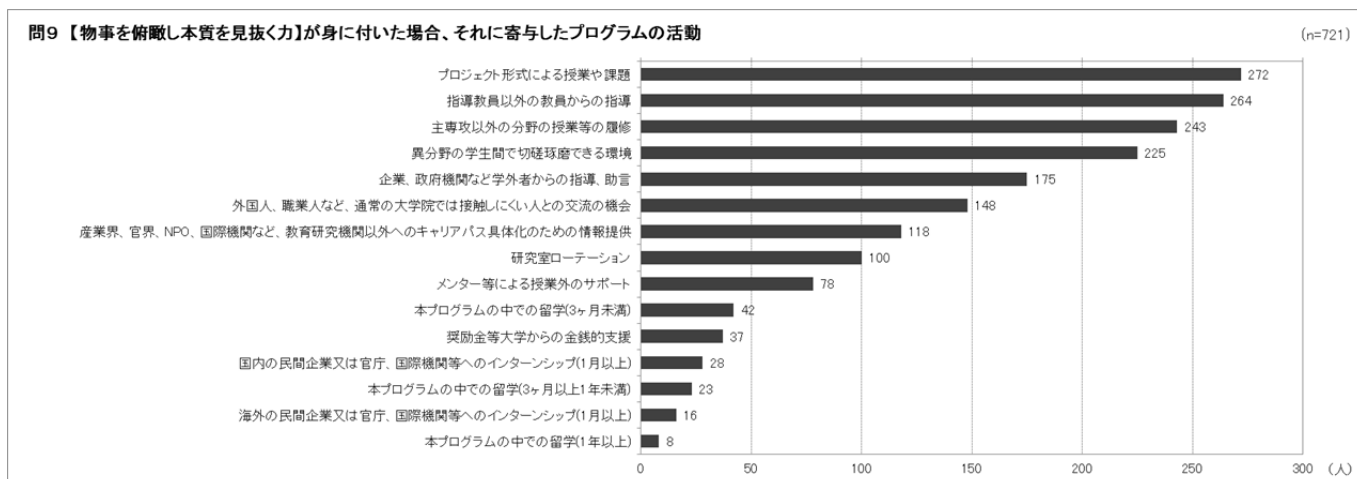


図 1 4 「物事を俯瞰し本質を見抜く力」を身に付けるのに寄与したプログラムの活動 (n=721)

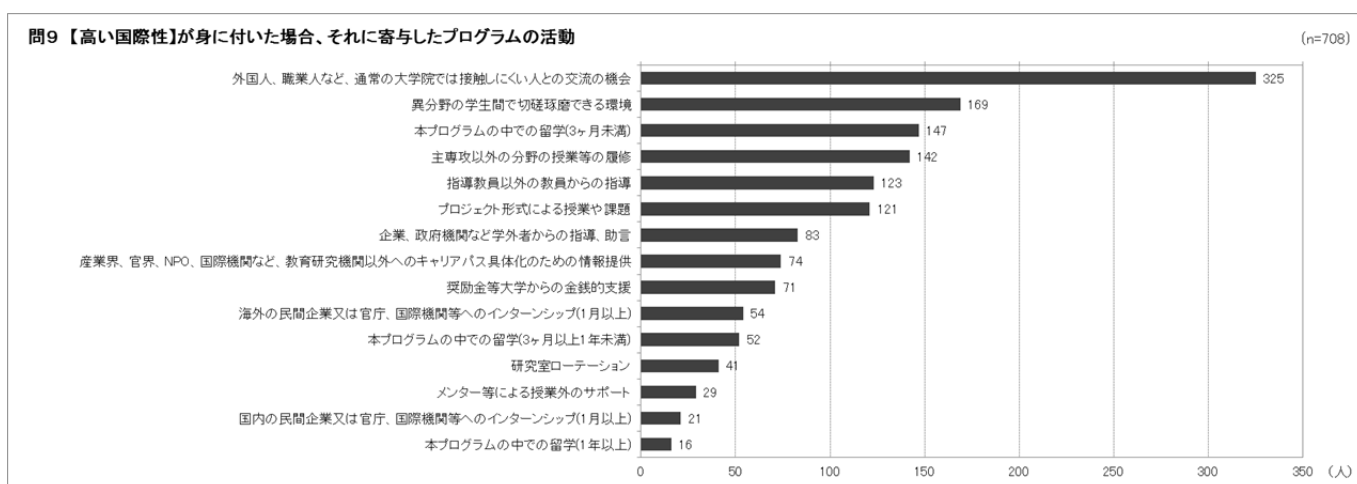


図 1 5 「高い国際性」を身に付けるのに寄与したプログラムの活動 (n=708)

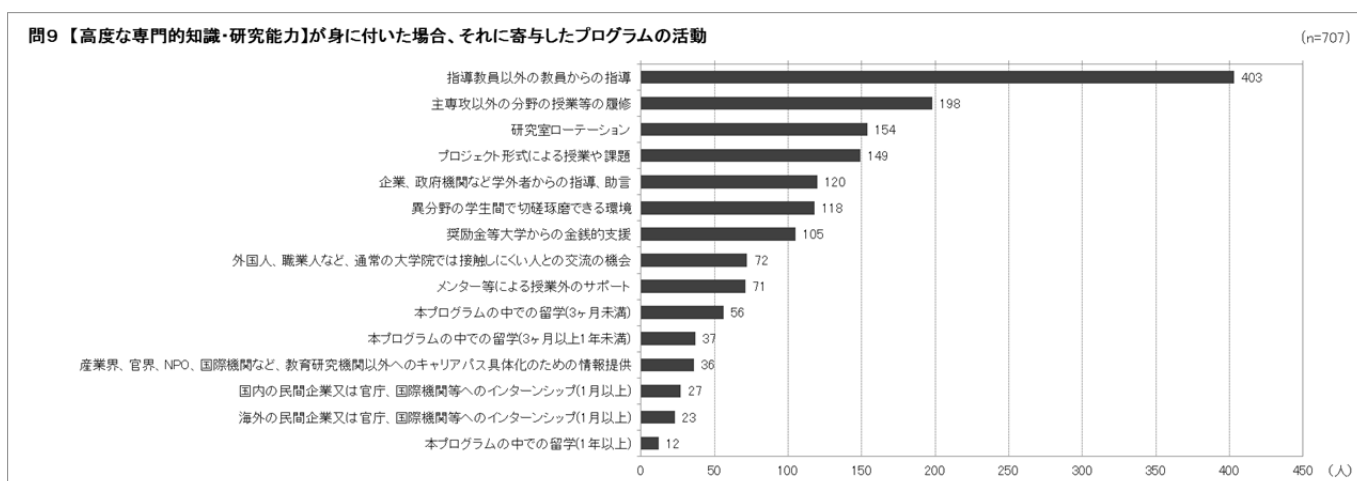


図 1 6 「高度な専門的知識・研究能力」を身に付けるのに寄与したプログラムの活動 (n=707)

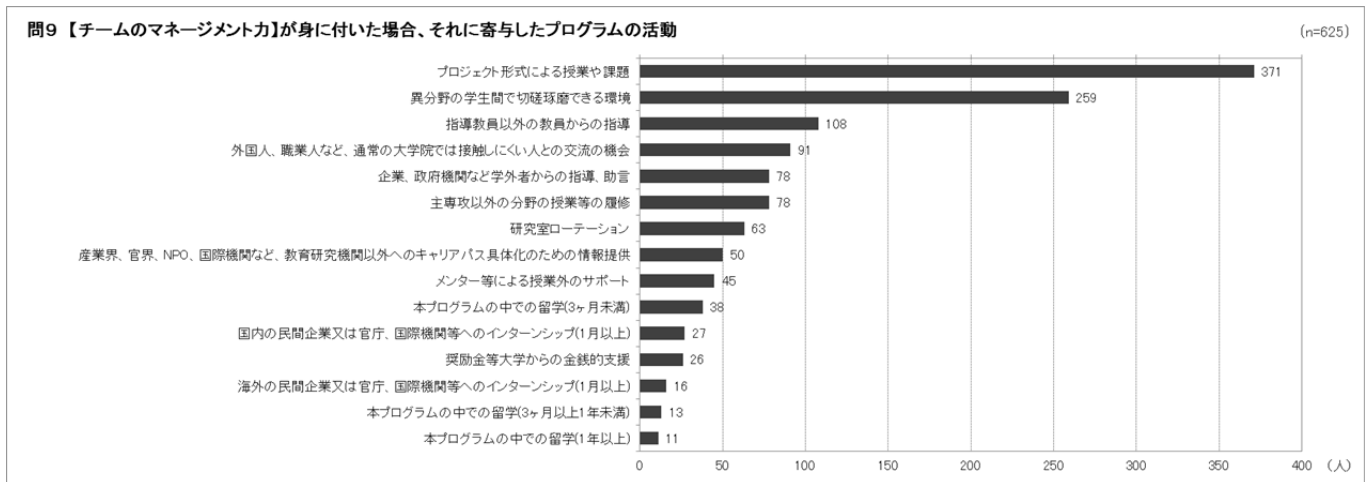


図17 「チームのマネージメント力」を身に付けるのに寄与したプログラムの活動 (n=625)

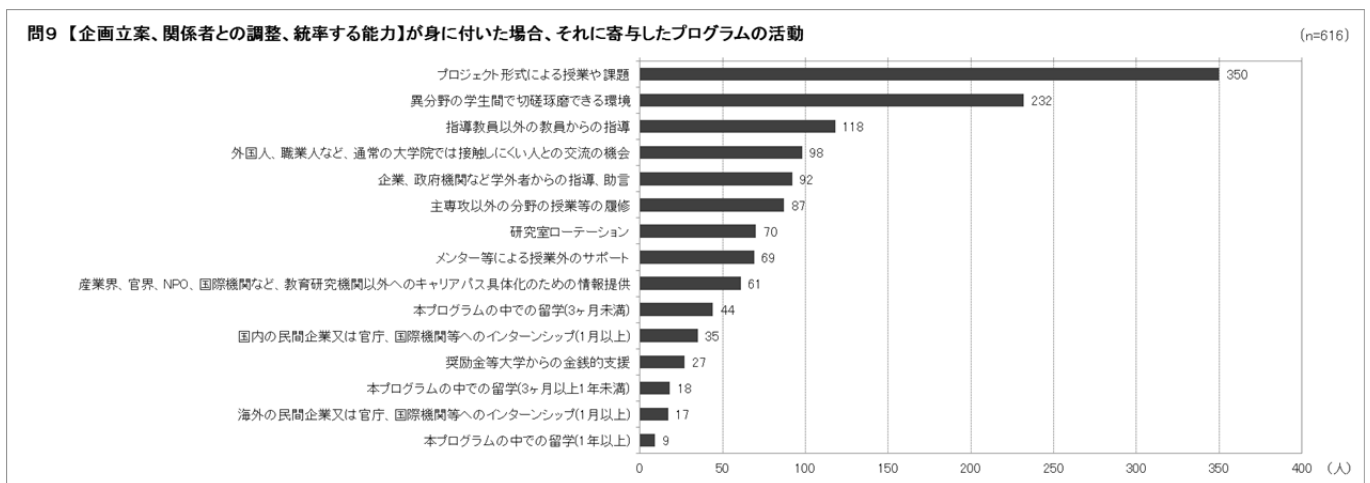


図18 「企画立案、関係者との調整、統率する能力」を身に付けるのに寄与したプログラムの活動 (n=616)

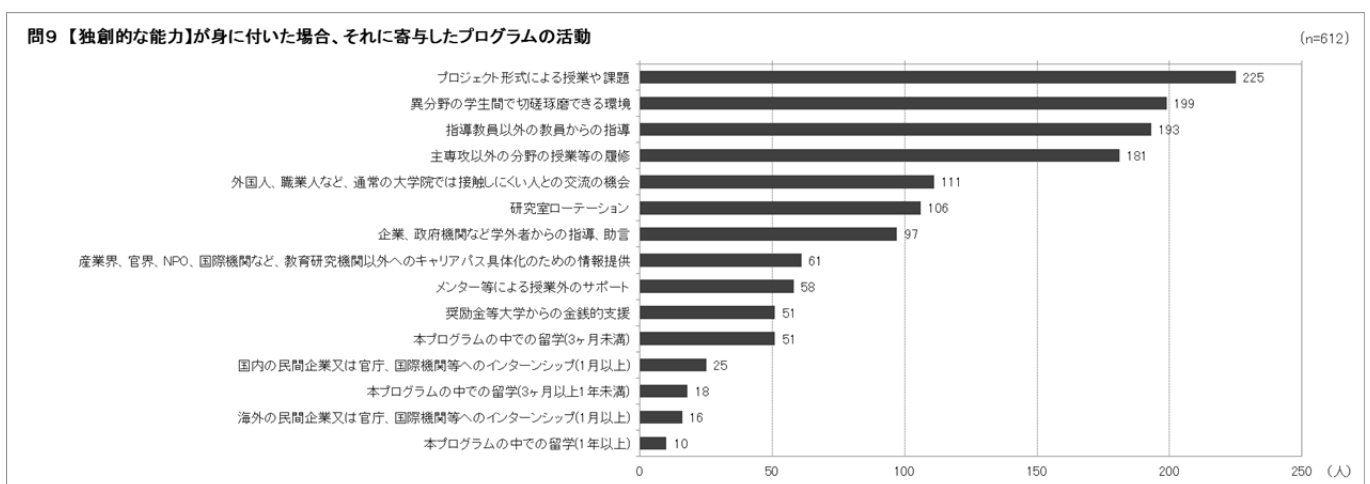


図19 「独創的な能力」を身に付けるのに寄与したプログラムの活動 (n=612)

## 7. プログラムへの評価（問10）

学生にプログラムに実際に参加している教員や、プログラムに参加していない周囲の教員等のプログラムへの理解や、プログラムそのものに対する印象を聞いている（図20）。

8割を超える学生が「後輩にもこのプログラムを勧めたい」、「学術研究だけではなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を作り出す可能性が大きい」、「プログラムに参加していない教員等はプログラムの目的を理解し、あなたがプログラムに参加することに協力的である」について「非常にそう思う」または「そう思う」と回答しており、将来への期待の大きさや、学内全体への理解が広がっていることがうかがえる。しかし「プログラムに参加する教員の間での理解の共有」および「一部の教員への負担の集中」については厳しい評価をする学生も一定数おり、課題があると言える。

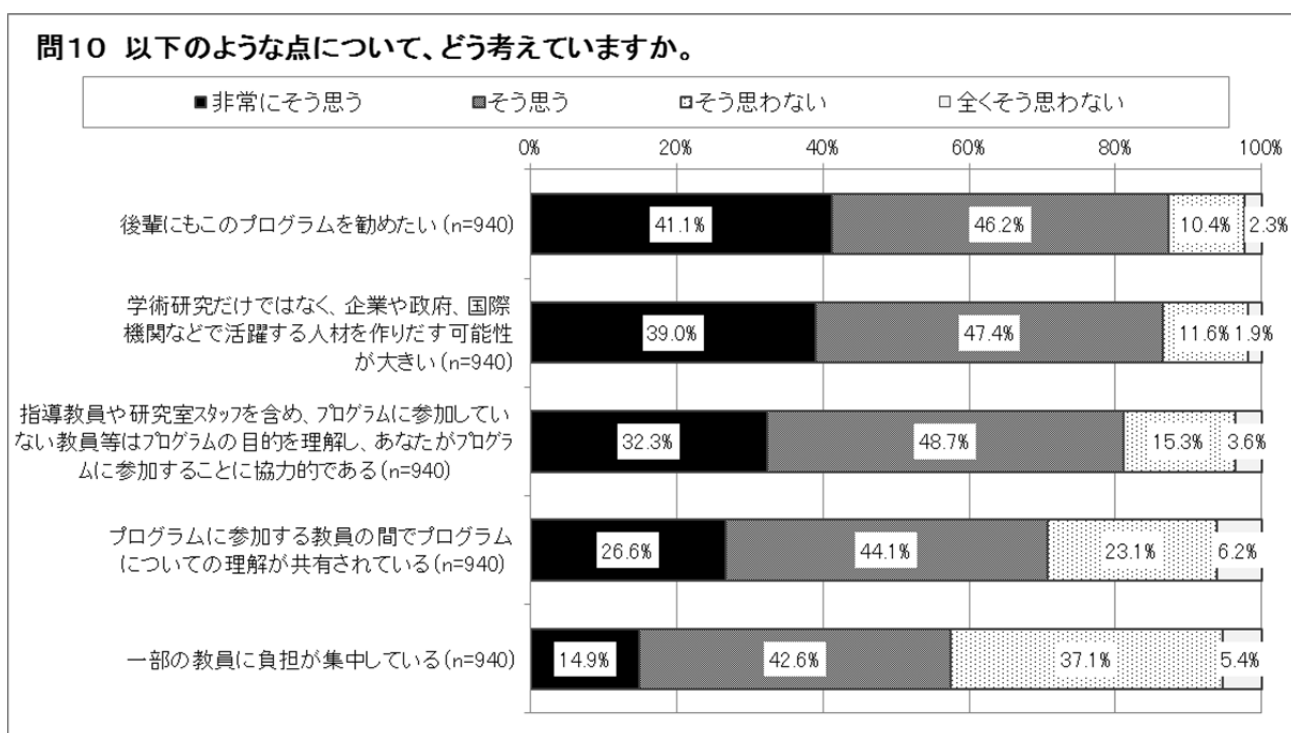


図20 プログラムへの評価 (n=940)

## 8. プログラムの効果・負担（問11）

学生にプログラム参加による研究面やキャリア面での効果、また負担について聞いている（図21）。

約9割の学生が、プログラムによって「自身の研究に新たな示唆・知見」が得られると回答している一方で、半数程度の学生が「修了後の進路に不安がある」、「所属研究室において、自分の専門的な研究を進めて、業績を上げられるか不安がある」と回答しており、学生の将来に対する不安が懸念点であると考えられる。

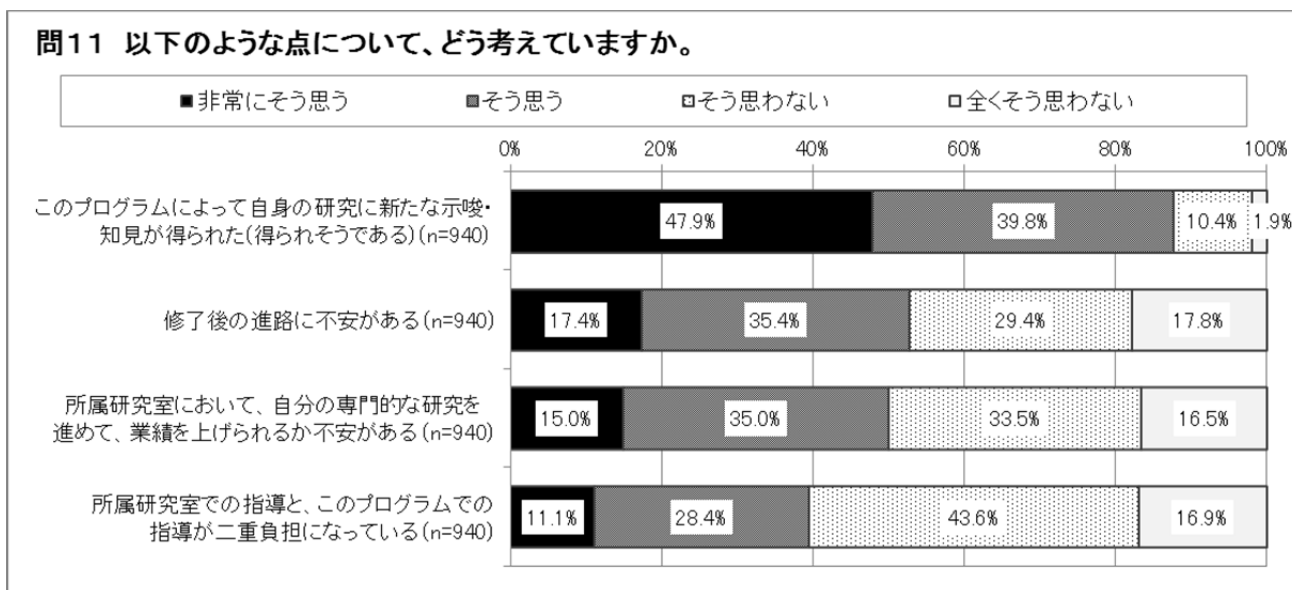


図21 プログラムの効果・負担 (n=940)



## 9. 修了後の進路（問12）

学生の進路について、入学時、アンケート回答時点（現在）の希望および決定した進路について聞いている（図22～図25）。

修了後の進路の希望としては、入学時、アンケート回答時点のいずれも「大学（海外を含む）に研究者として就職」を選択した学生が最も多い。しかしアンケート回答時点については、「大学（海外を含む）に研究者として就職」のほか、民間企業や公的研究機関の研究者や、民間企業（研究者以外）、国際機関、官公庁、起業、NPO など、ほぼ全ての項目において希望者が増加しており、特に国際機関や起業を希望する学生数の上昇率は顕著である。プログラムに参画することによって学生が多様な進路に目を向けるようになったと考えられる。

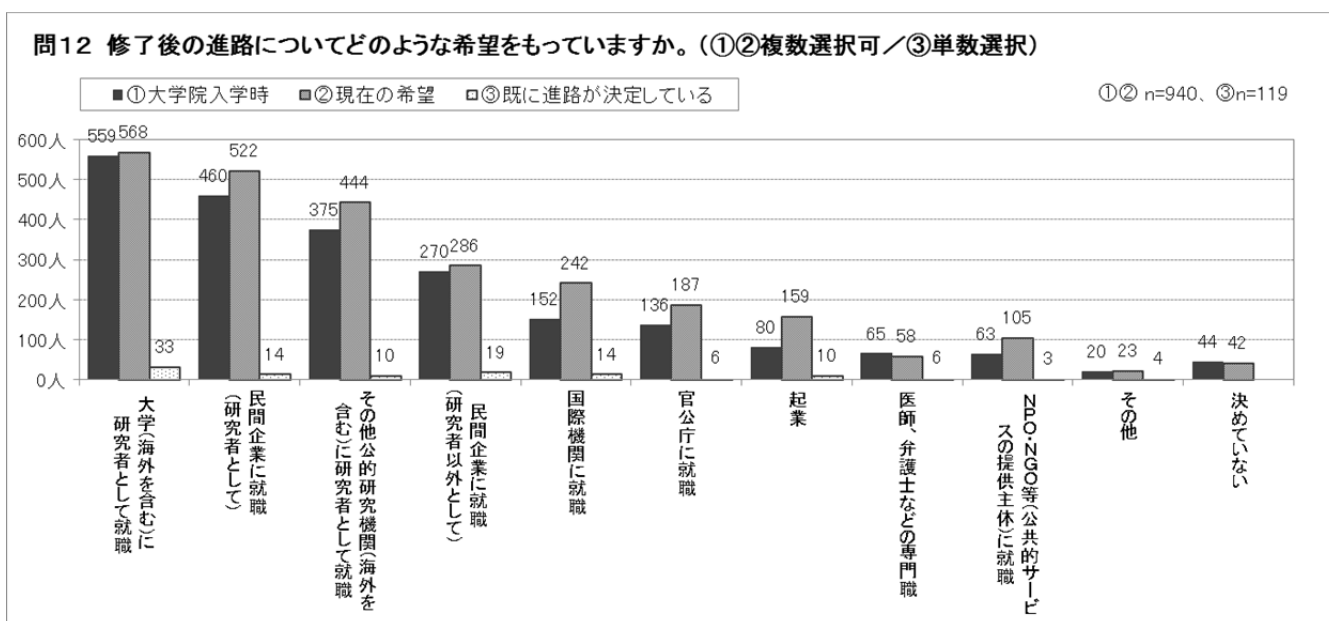


図22 ①大学院入学時、②現在の希望、③進路決定済み比較 (①②n=940、③n=119)

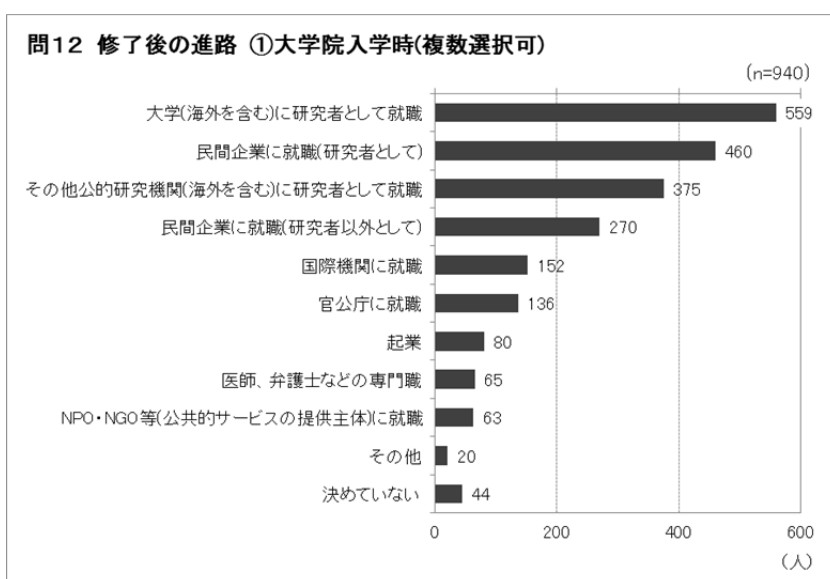


図23 大学院入学時の修了後の進路の希望 (n=940)

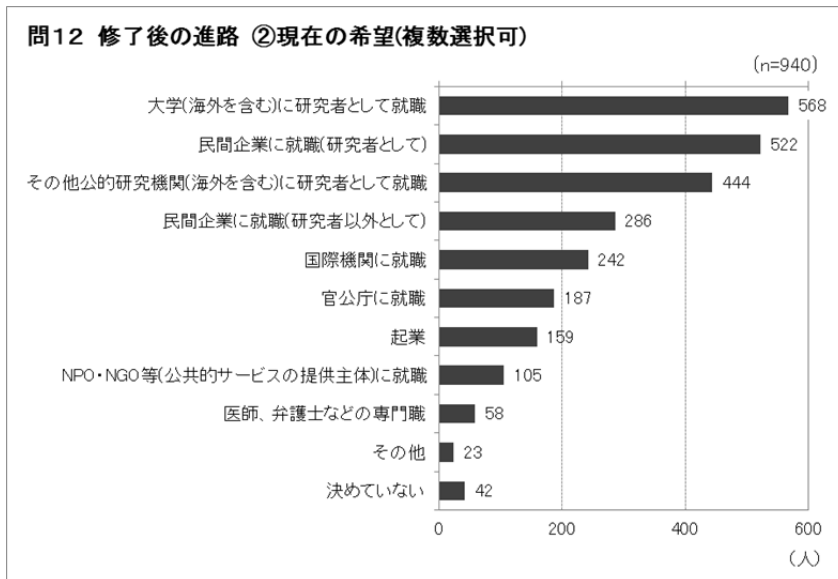


図 24 アンケート回答時点での修了後の進路の希望 (n=940)

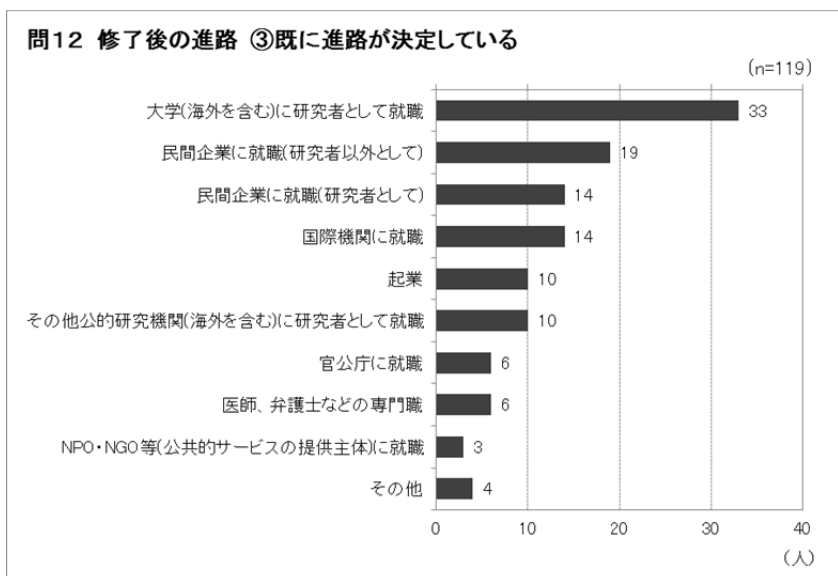
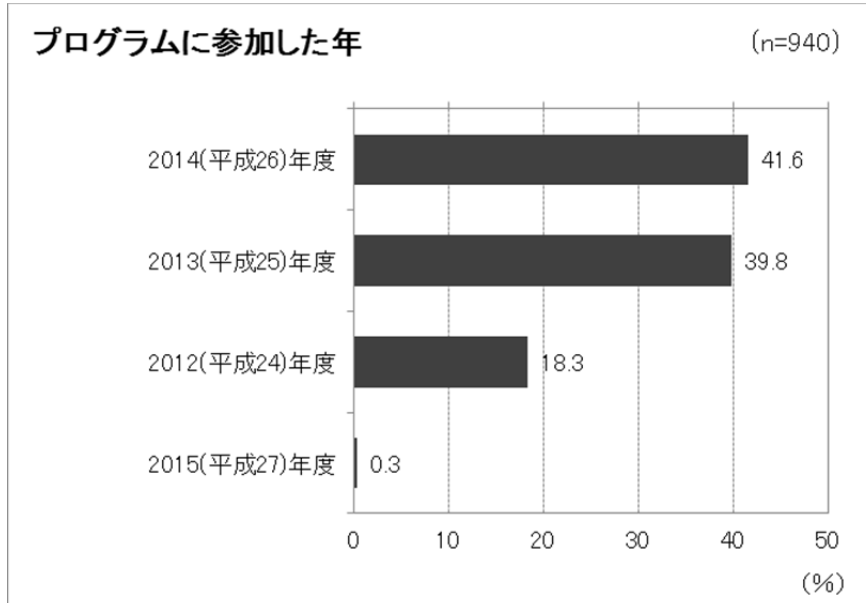
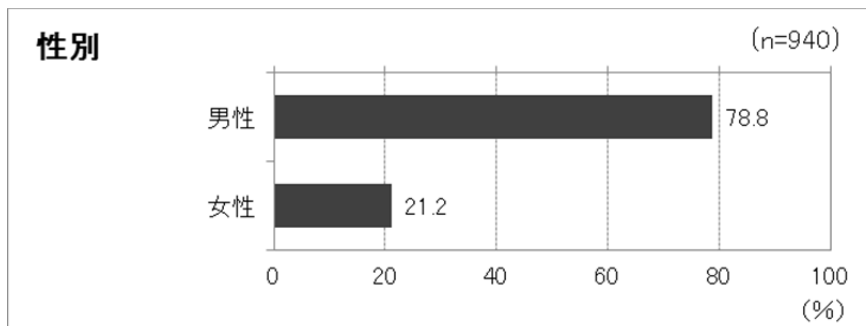
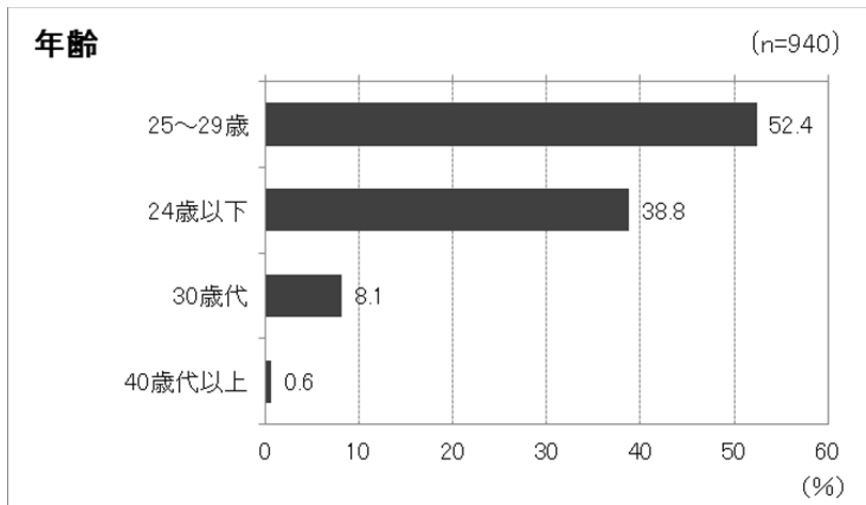
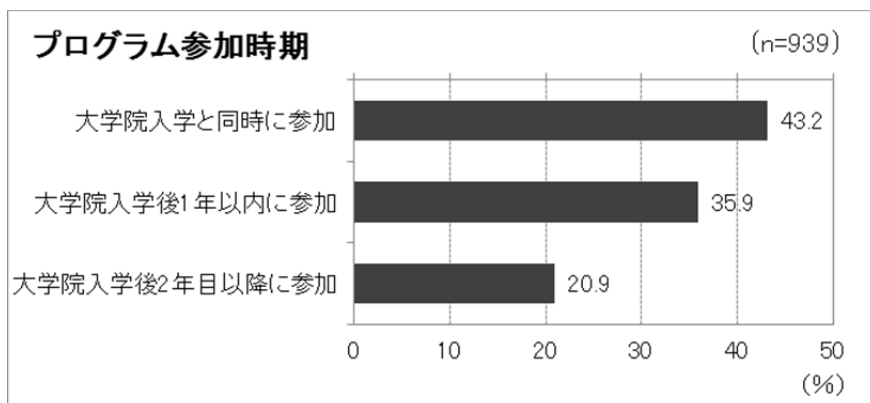
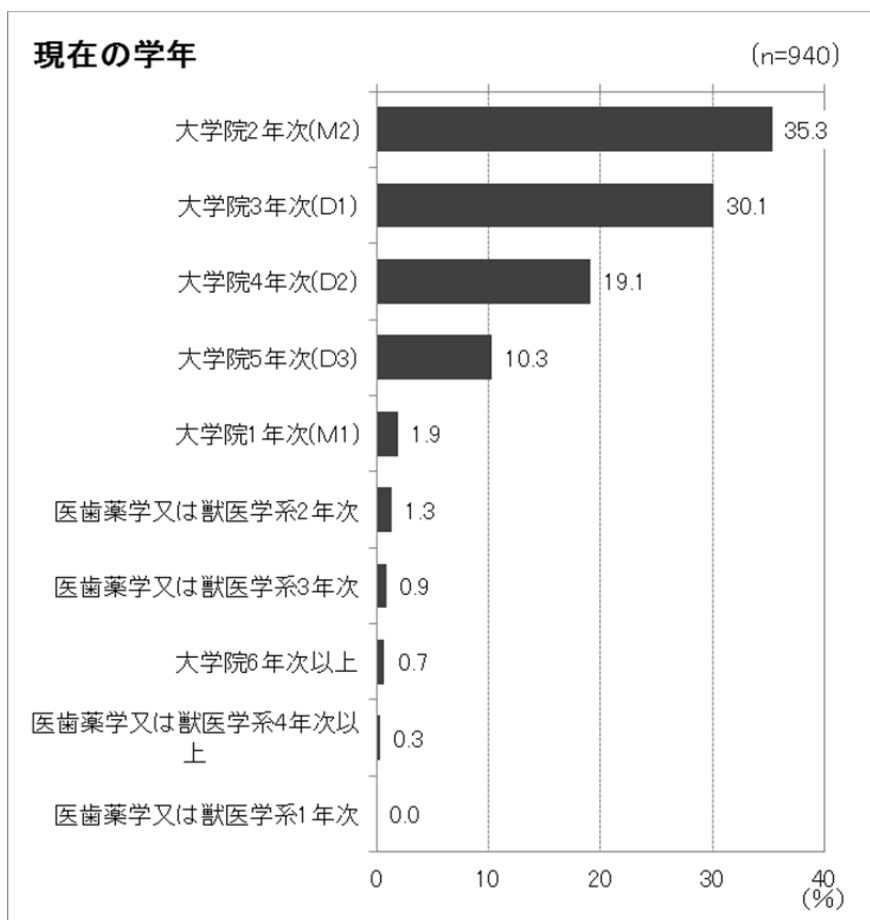


図 25 既に決定している進路 (単数回答) (n=119)

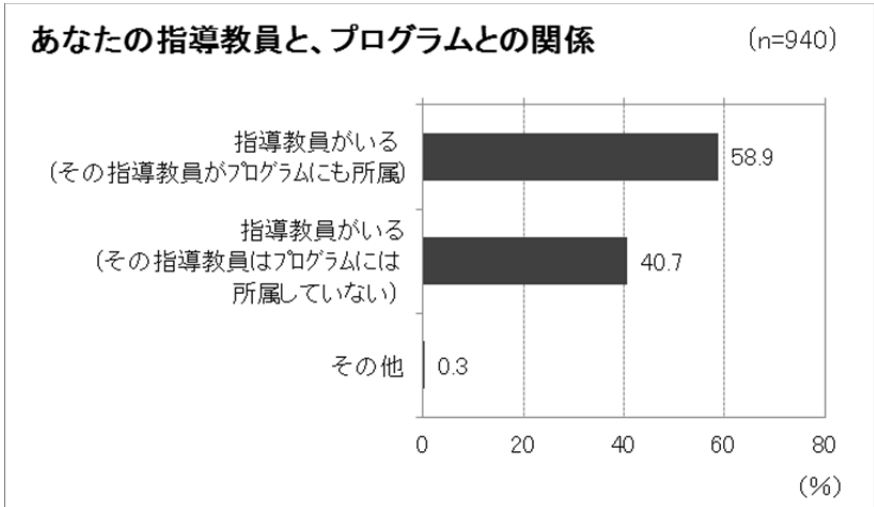
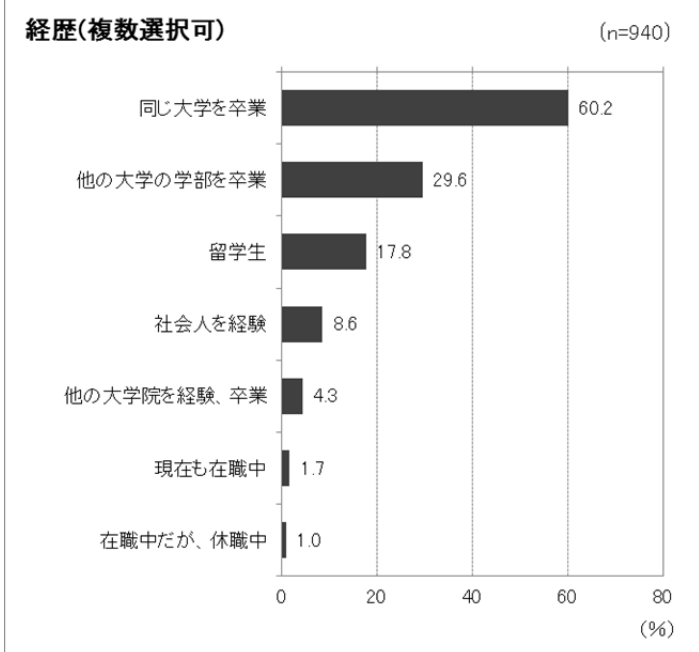
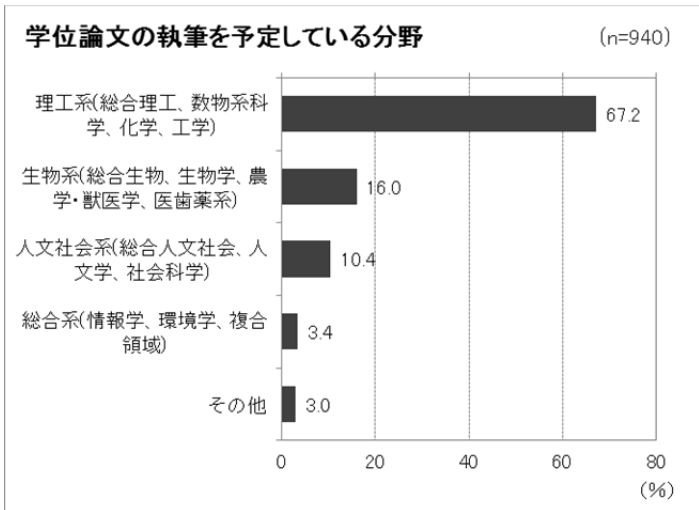
## 10. 学生の属性（問2，3，4，5）

本項目では、アンケートを回答した学生の属性について、各回答を選択した割合を掲載する。





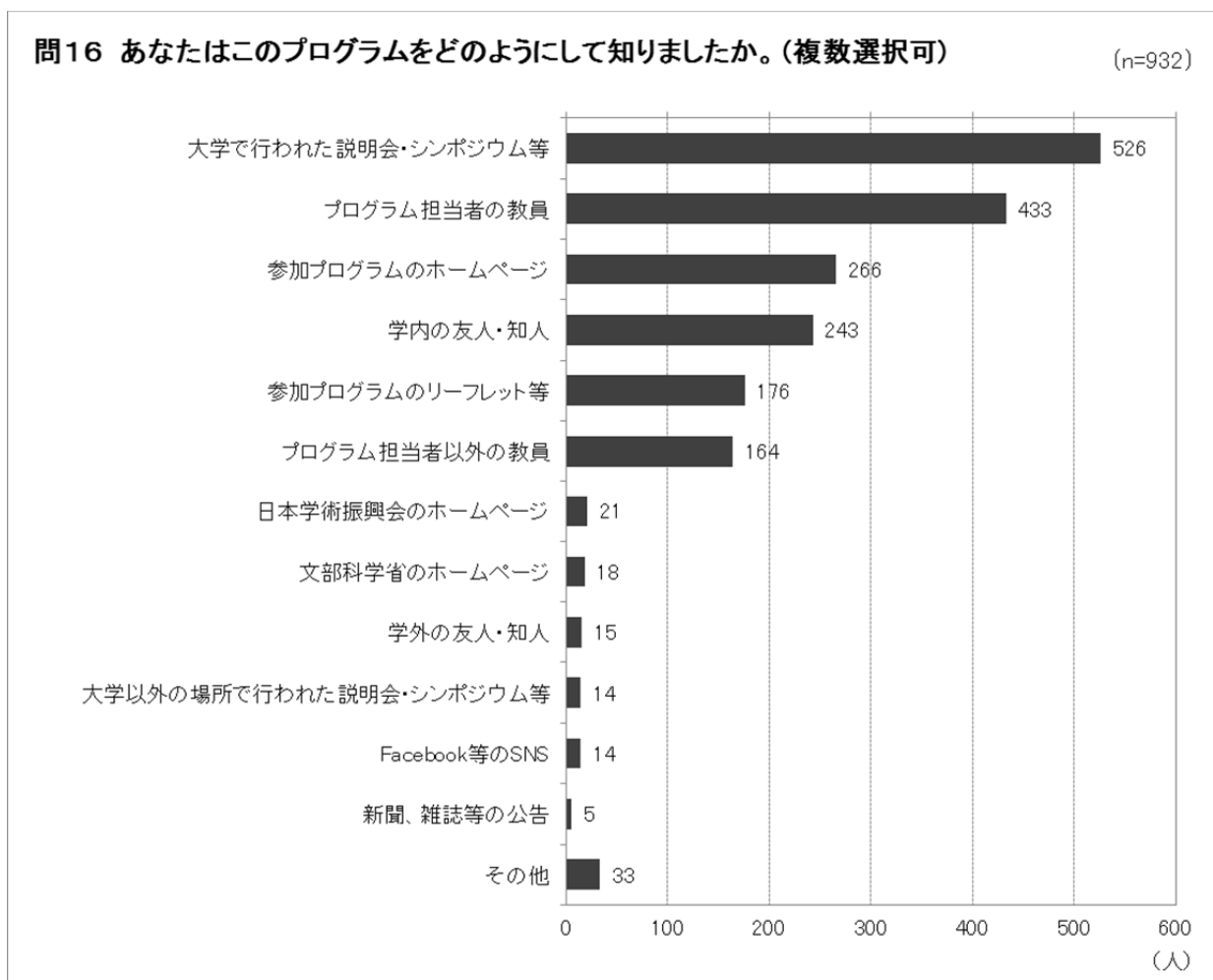
※「プログラムの参加時期」については、いずれにも当てはまらないと本人からの申告があったため、他の項目と母数が異なる。



### 11. プログラム情報の獲得方法（問16）

本項目では、プログラムをどのようにして知ったかについて、回答を選択した人数を掲載する。なお、本項目は任意回答としている。

プログラムをどのようにして知ったかについて、半数以上は「大学で行われた説明会・シンポジウム等」と回答しており、続いて半数弱が「プログラム担当者の教員」と回答している。「プログラムのホームページ」、「学内の友人・知人」がそれに続いており、学内での広報の影響が大きかったと考えられる。



## 第2部 プログラム担当者アンケート調査結果

### 1. プログラムへの関与（問3）

学位プログラムに属する学生の研究指導、学位審査等の質保証を担当し、あるいは履修支援、キャリア形成などを総括しプログラムの実施を責任ある立場で主体的に担う常勤または非常勤の者（以下、プログラム担当者）に対し、本事業への申請時に想定されていたエフォートと、平成26年度の実績としてのエフォートを聞いている（図26）。

平成26年度の実績においては、エフォート1割未満とする担当者が約半数程度に上っており、1割以上2割未満とする担当者と合計すると、約8割程度がエフォート2割未満でプログラムに関与している。

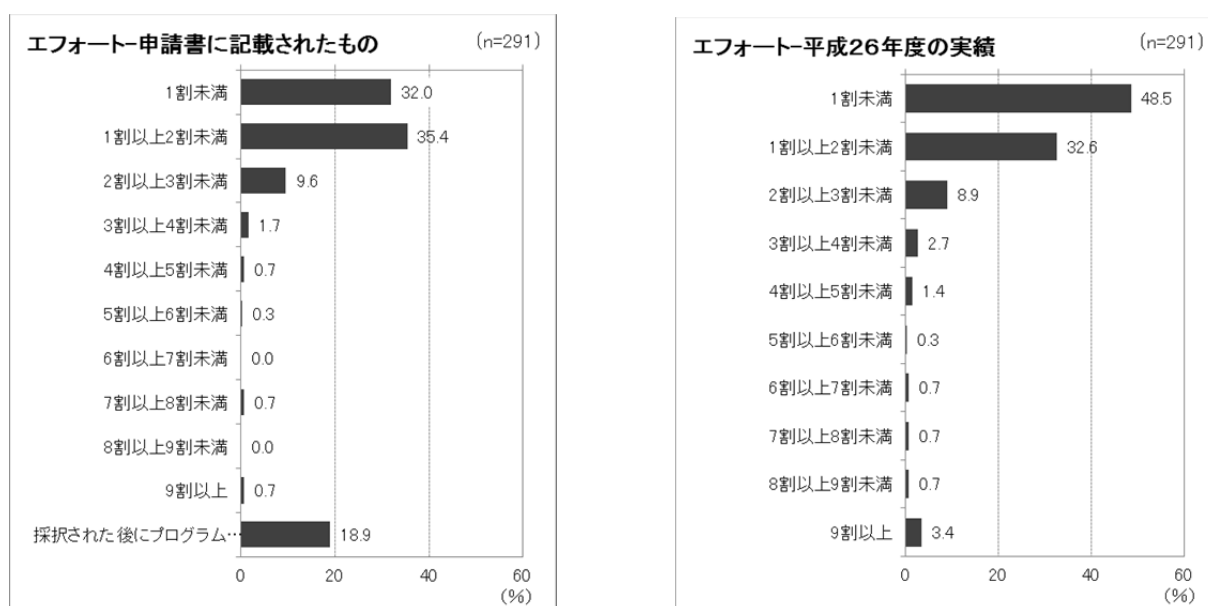


図26 申請時の想定と平成26年度実績のエフォート（n=291）

## 2. 指導の内容（問5）

プログラム担当者に対し、学生にどのような指導を行っているか（図27）、また行っている場合はその有効性について聞いている（図28）。

各プログラム担当者が行っている指導として、「主専攻以外の分野の学生を対象とした授業等」や「指導学生以外の学生への指導」が5割強で多く挙げられた。各項目で指導を行っていると回答した人数に差はあるものの、いずれの指導についてもそれを行っているプログラム担当者のほぼ全員が「有効」または「ある程度有効」と考えている。

### 行っている指導

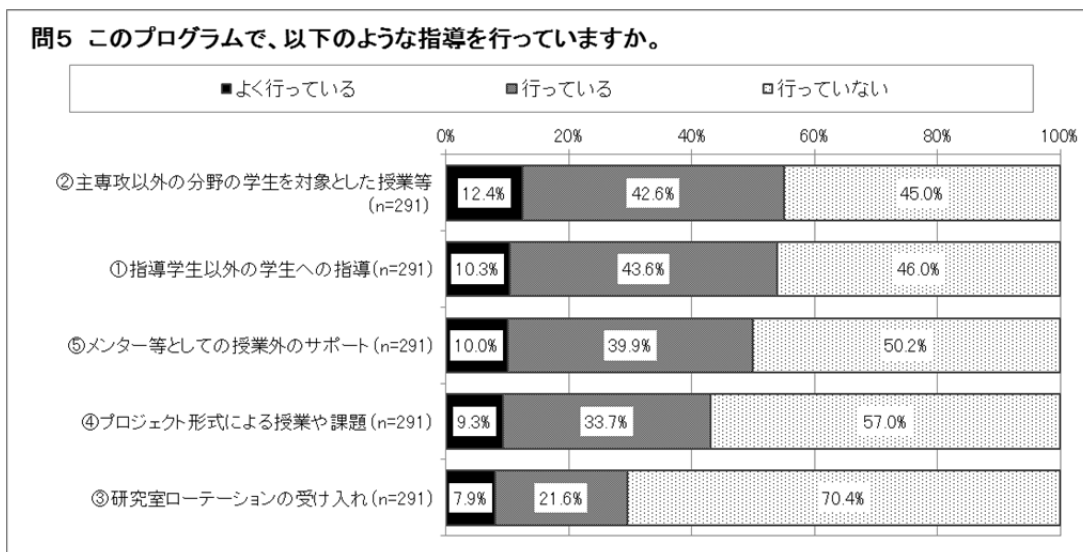


図27 プログラムで担当している指導等 (n=291)

### 指導の有効性

<「よく行っている」「行っている」を選択した場合のみ回答>

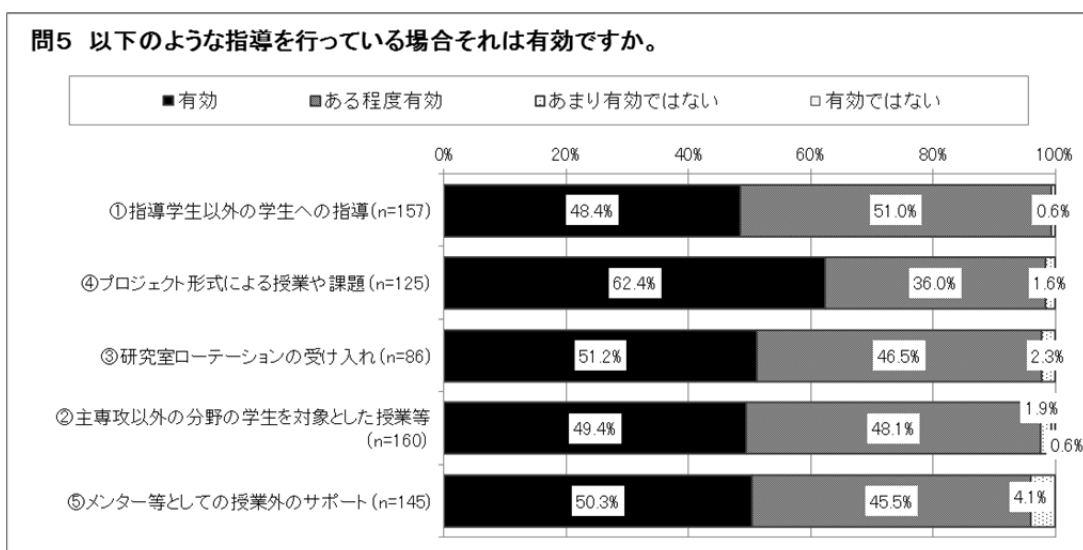


図28 指導の有効性



### 3. 実施されたプログラムと整備された環境（問6）

本プログラム内で学生のために実施されたプログラムや整備された環境について、それが十分実施（整備）されていると感じているか（図29）、また「分からない」以外を選択した場合にはそれが有効と考えているかについて聞いている（図30）。

回答者のうち半数以上が「外国人、職業人など、通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会」や「異分野の学生間で切磋琢磨できる環境」、「奨励金等大学からの金銭的支援」について「十分にされている」と回答した。留学や国内外でのインターンシップといった学外での活動については2～3割程度が「分からない」を選択しているが、「分からない」以外の回答を行ったプログラム担当者のうちほぼ全てがいずれの取組についても有効と考えている。

#### プログラムの実施及び環境の整備状況

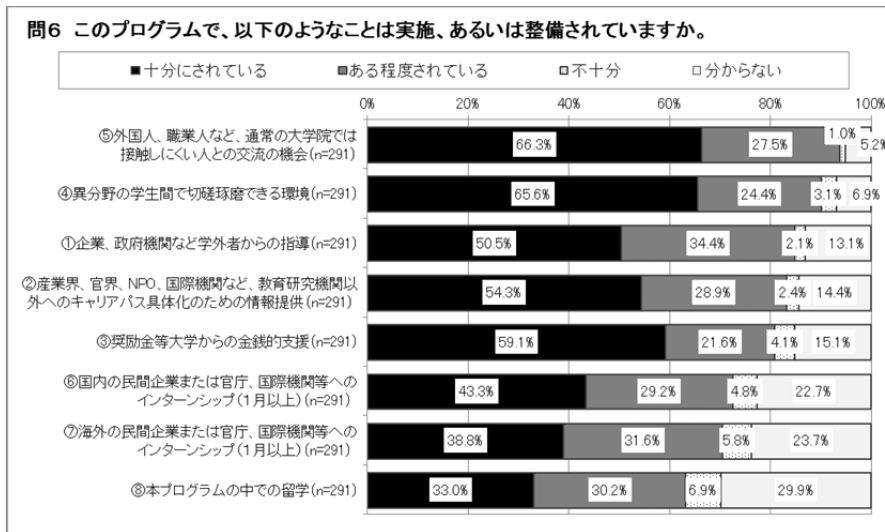


図 29 プログラムの実施や環境の整備状況 (n=291)

#### 実施されたプログラムと整備された環境の有効性

< 「十分にされている」「ある程度されている」「不十分」を選択した場合のみ回答 >

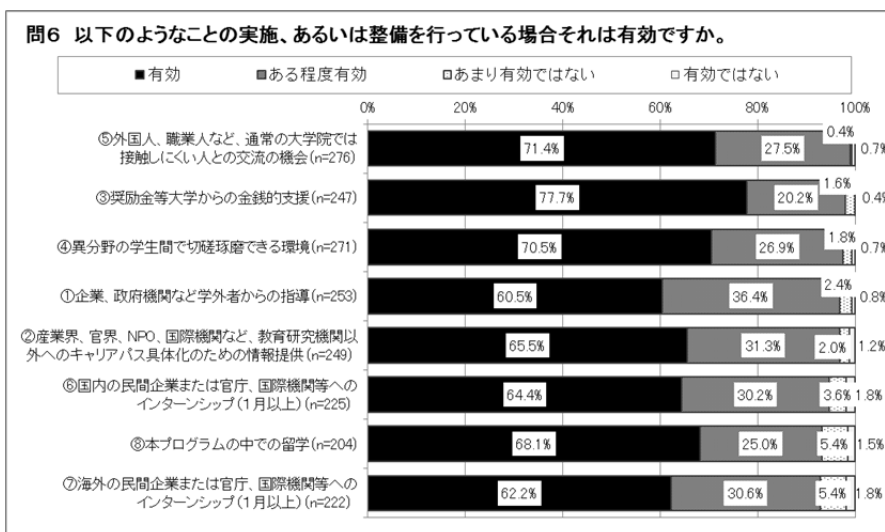


図 30 実施されたプログラムと整備された環境の有効性

#### 4. プログラムの有効性（問7）

各プログラムに参加することにより、学生に各能力を身に付けさせることができるか、その有効性を聞いている（図31）。

ほぼ全てのプログラム担当者が身に付けさせる能力について、各プログラムは有効であると考えている。特に「専門以外の幅広い知識」や「高い国際性」、「他者と協働する力」について「非常に有効」と考えている。

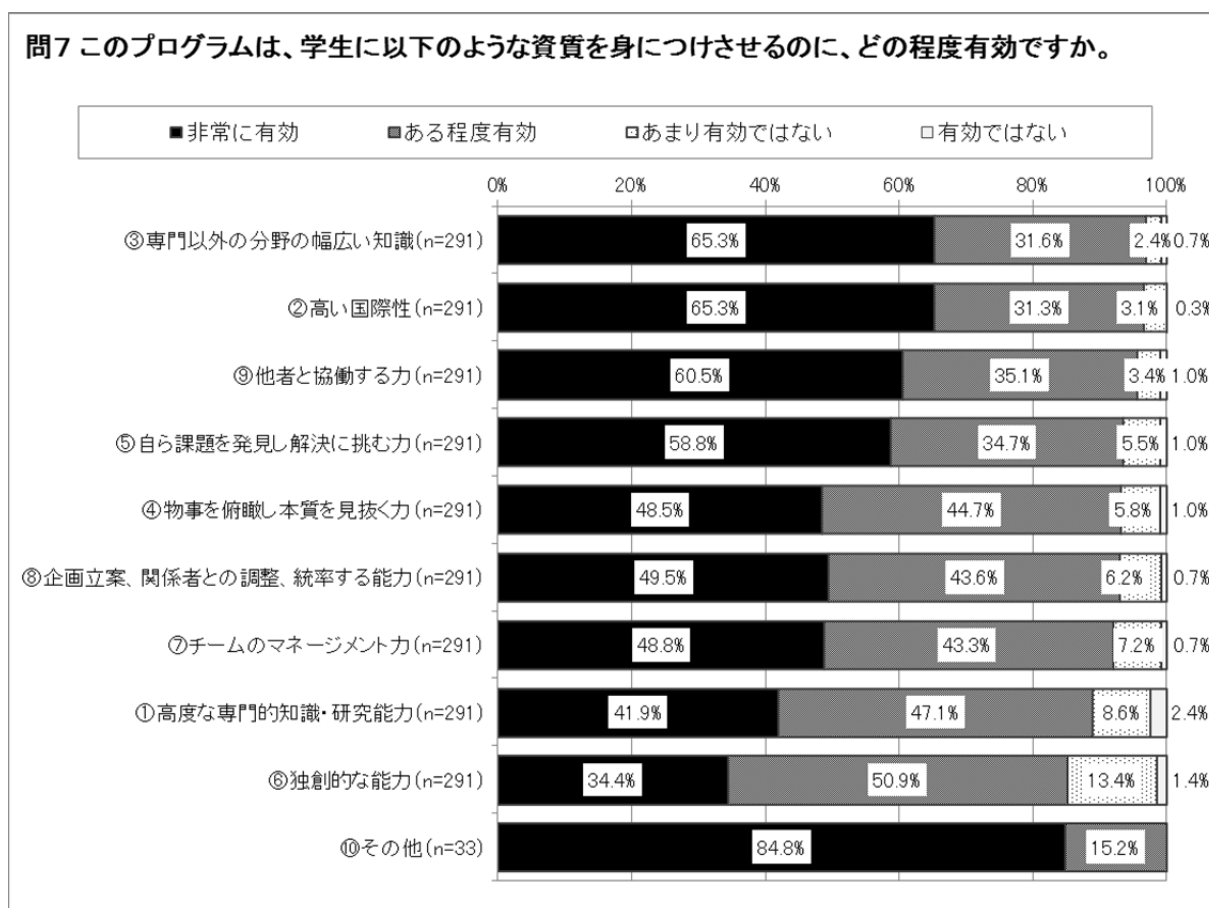


図31 学生へ能力を身に付けさせるためのプログラムの有効性（n=291）

## 5. 運営・管理（問8）

プログラムの運営・管理の面についての印象をプログラム担当者へ聞いている（図32）。

学内外への広報については積極的に行われているとほぼ全てのプログラム担当者が考えているが、学長のリーダーシップが発揮されているかという点については、そう思わないという回答が2割を超え、他の項目に比して肯定的な回答が少ない。

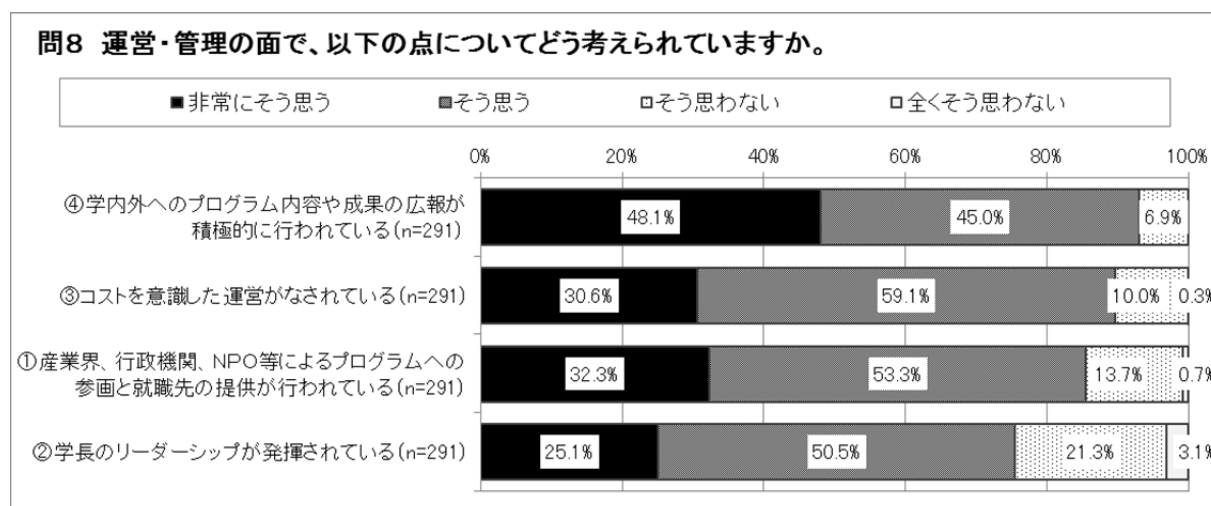


図32 運営・管理の面での印象 (n=291)

## 6. プログラムに対する印象（問9）

プログラムに参加している学生やプログラムの将来展望などを含めた、プログラムの印象を聞いている（図33）。

ほとんど全てのプログラム担当者が、「学術研究だけでなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を作り出す見込みがある」と回答している。一方で、「プログラム担当者以外の教員の理解があり、協力的である」と考える者はそれに比して少なく、補助期間終了後の独自財源による運営の見通しについては疑問を感じているプログラム担当者も4割程度で少なくない。また、「一部の教員に負担が集中している」という回答も6割程度存在するなど、プログラムの有効性は認めつつも、現状でのプログラムの運営や将来の継続性については疑問視する者が多いと考えられる。

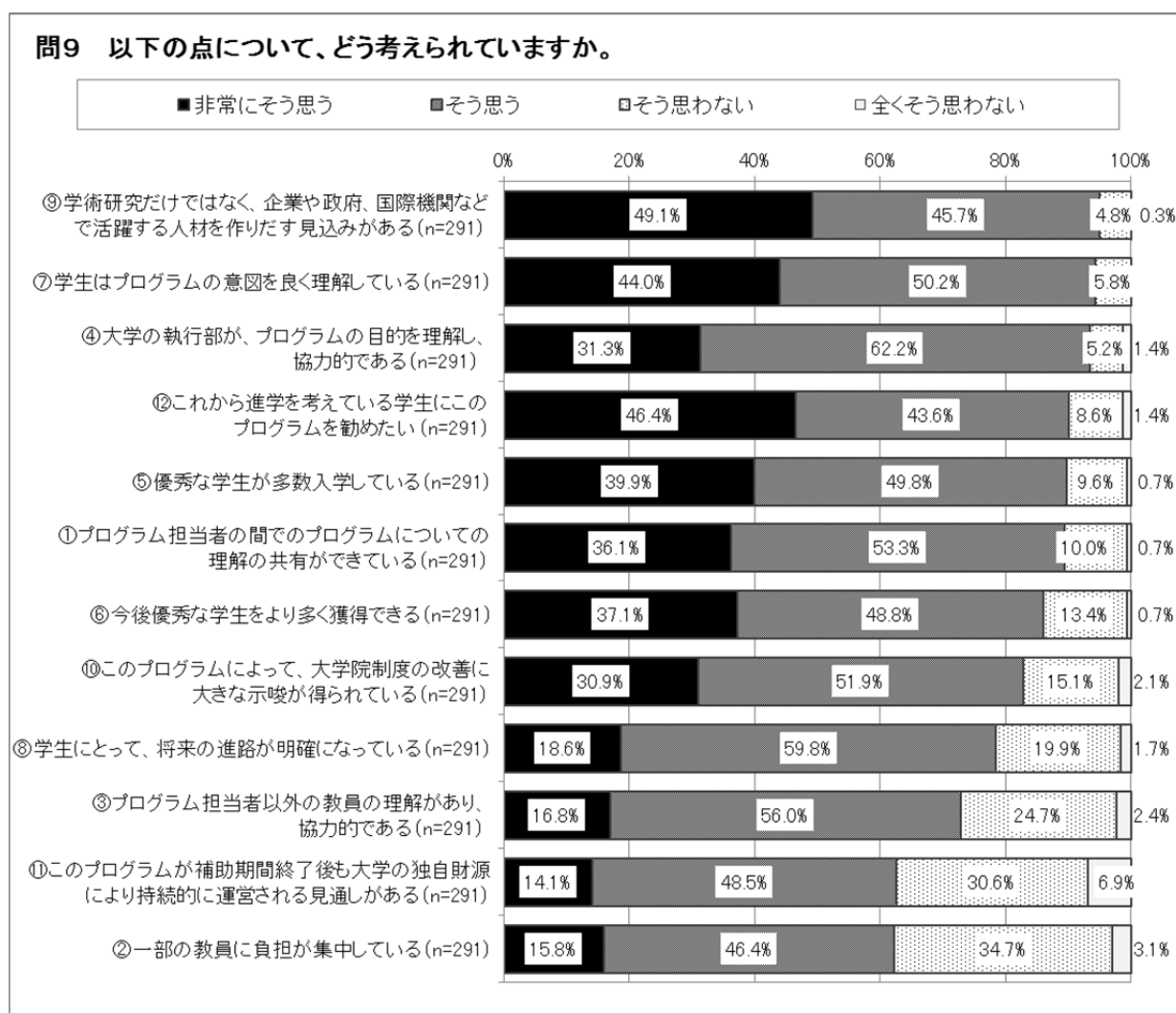


図33 プログラムに対する印象 (n=291)

## 7. 指導・支援の改善のための評価等の実施（問10）

プログラムで担当する指導・支援方法の改善のため、学生等による評価やアンケートを行っているか聞いている（図34）。

半数以上のプログラム担当者が改善に向けた取組を実施している。

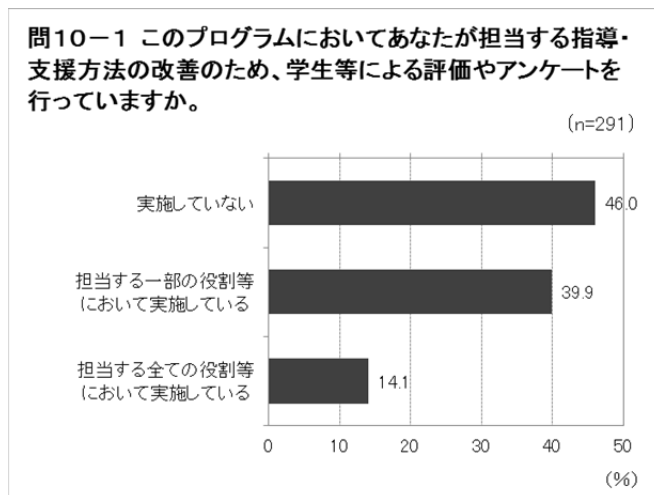


図34 指導・支援の改善のための評価等の実施 (n=291)

## 8. 学生への効果・負担（問11）

学生への効果や負担等について聞いている（図35）。

このプログラムによって「学生自身の研究に新たな示唆・知見」が得られるかについて、ほぼ全員が肯定的な評価を示している。一方で3割以上が「学生にとって、所属研究室での指導と、このプログラムでの指導が二重負担になっている」と回答し、「学生の専門的研究における業績」についても約2割の担当者が不安視するなど、プログラムと所属研究室との両立に課題が残っていることがうかがえる。

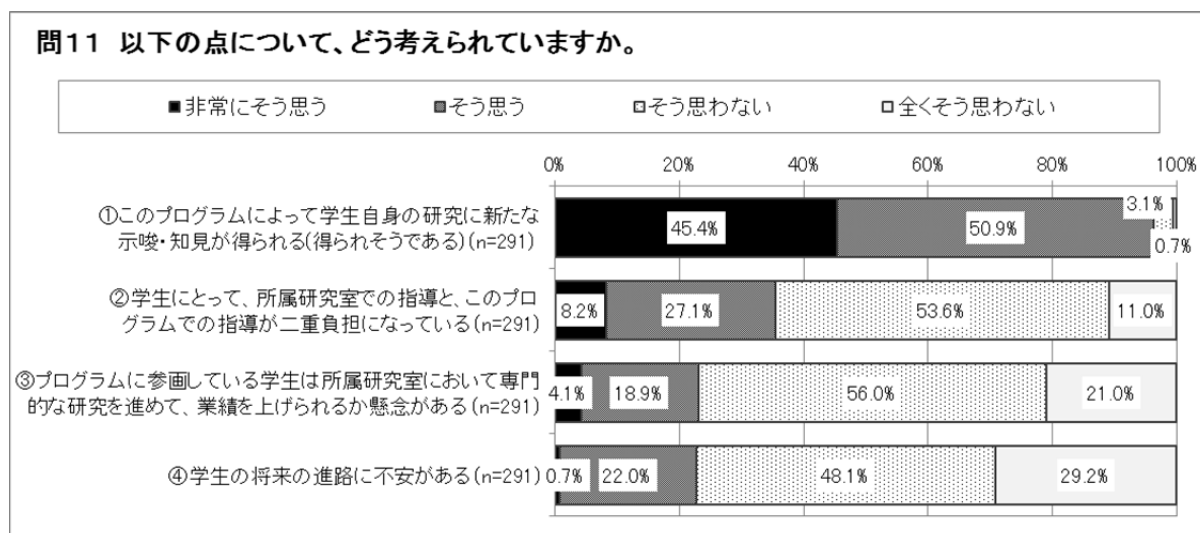
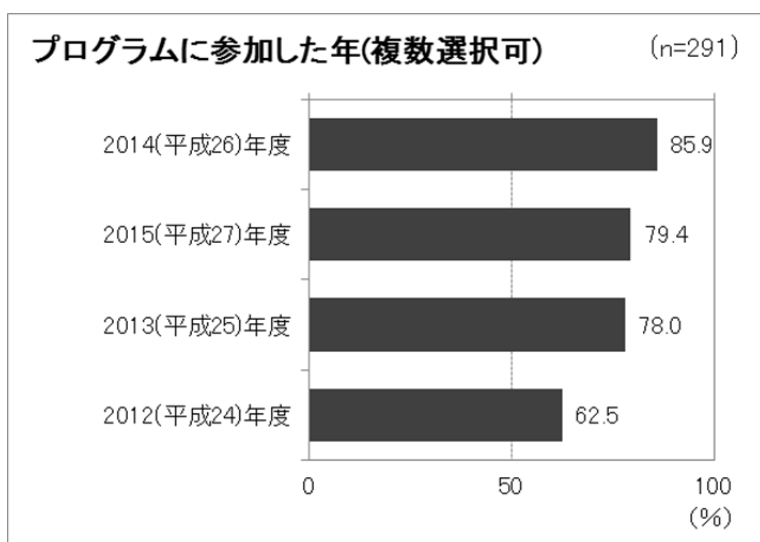
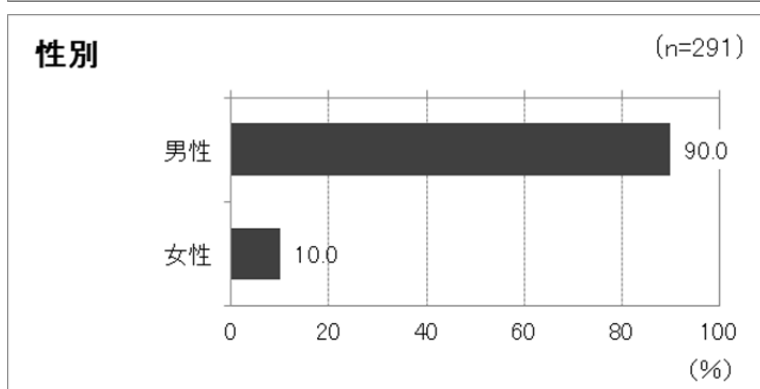
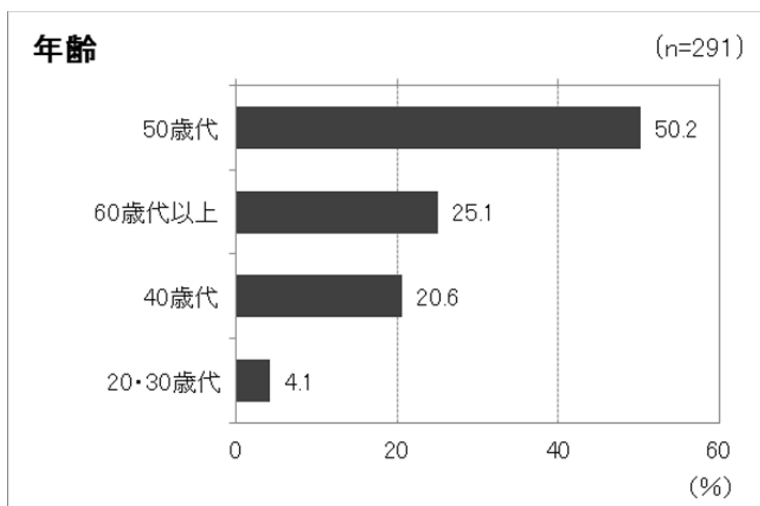


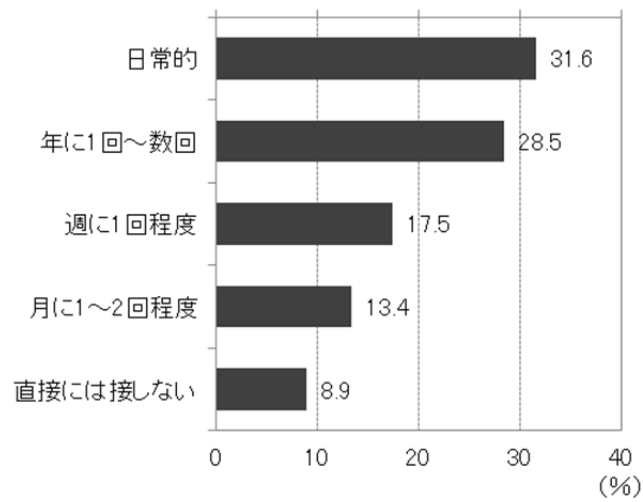
図35 学生への効果・負担等 (n=291)

## 9. 参加教員の属性（問2，3，4）

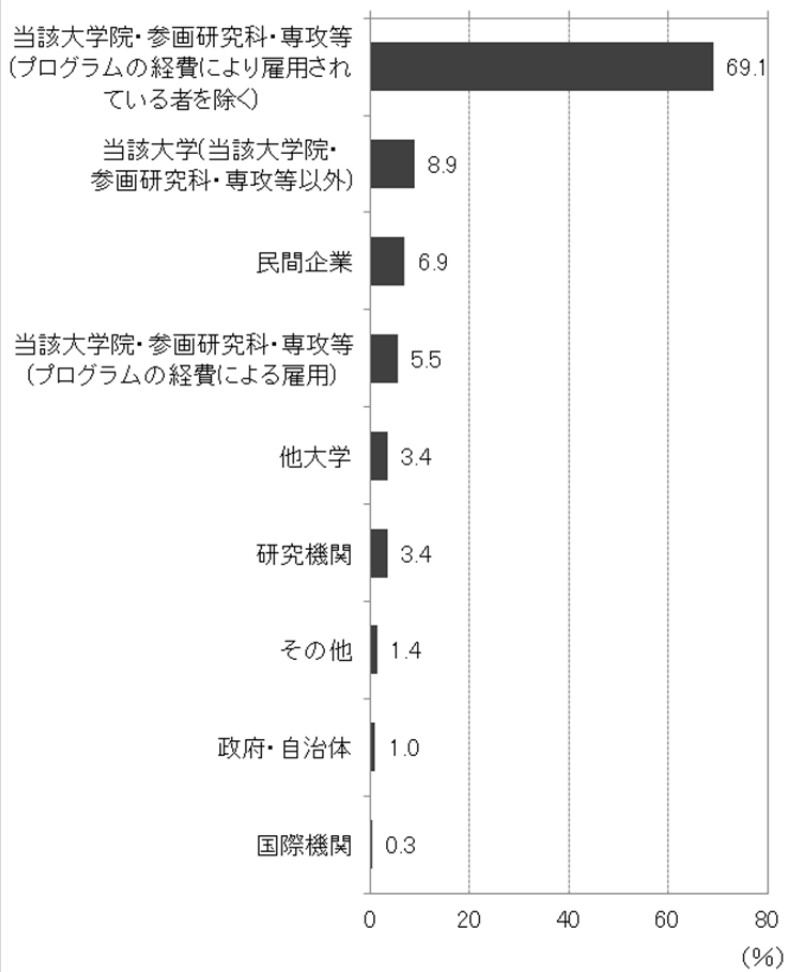
本項目ではアンケートに回答したプログラム担当者の属性について、各回答を選択した割合を掲載する。



**本プログラムの学生に直接に接する頻度** (n=291)

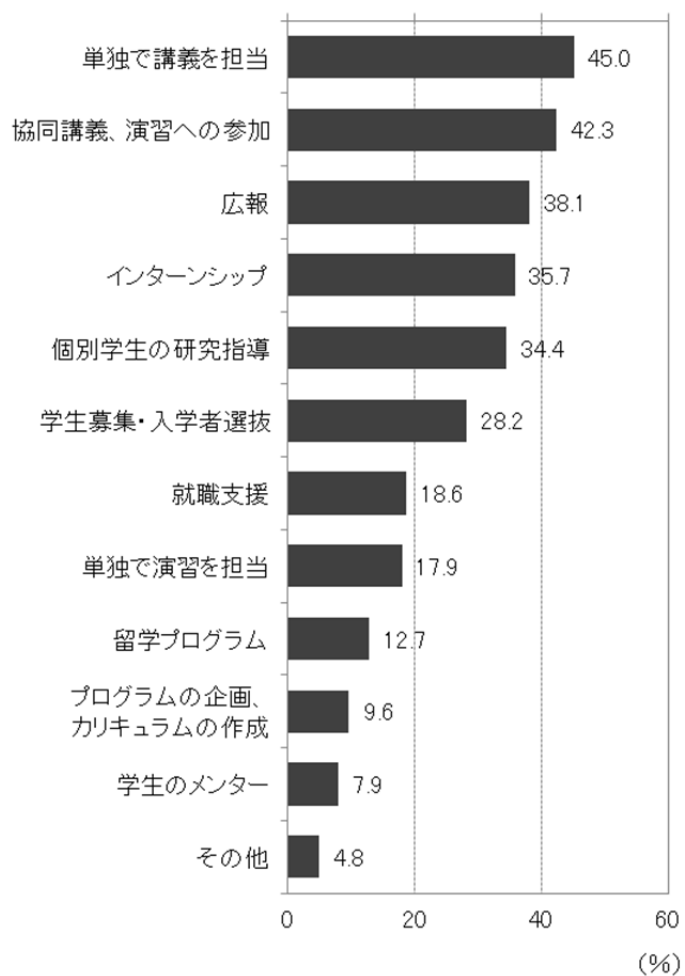


**所属(本務)** (n=291)



### プログラム内の担当(複数選択可)

(n=291)





## 附録A サンプルと回答者数

		大学名	プログラム名	学生			プログラム担当者		
				対象者	回答者	回答率	対象者	回答者	回答率
オールラウンド型	G01	東京工業大学	グローバルリーダー教育院	40	40	100.0%	16	12	75.0%
	G02	名古屋大学	PhDプロフェッショナル登龍門	39	39	100.0%	11	8	72.7%
複合領域型 (環境)	H01	東京農工大学	グリーン・クリーン食料生産を支える実践科学リーディング大学院の創設	44	42	95.5%	16	15	93.8%
	H02	九州大学	グリーンアジア国際戦略プログラム	37	37	100.0%	13	8	61.5%
複合領域型 (生命健康)	I01	京都大学	充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム	18	16	88.9%	23	15	65.2%
	I02	熊本大学	グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラムHIGO	29	29	100.0%	11	11	100.0%
複合領域型 (物質)	J01	東京大学	統合物質科学リーダー養成プログラム	157	152	96.8%	14	13	92.9%
	J02	大阪大学	インタラクティブ物質科学・カデットプログラム	44	44	100.0%	14	14	100.0%
	J03	九州大学	分子システムデバイス国際研究リーダー養成および国際教育研究拠点形成	33	33	100.0%	19	14	73.7%
複合領域型 (情報)	K01	東京大学	ソーシャルICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム	35	30	85.7%	30	18	60.0%
	K02	京都大学	デザイン学大学院連携プログラム	27	24	88.9%	11	9	81.8%
	K03	大阪大学	ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム	44	41	93.2%	15	14	93.3%
複合領域型 (多文化共生社会)	L01	金沢大学	文化資源マネージャー養成プログラム	13	13	100.0%	9	9	100.0%
	L02	大阪大学	未来共生イノベーター博士課程プログラム	26	24	92.3%	16	11	68.8%
	L03	同志社大学	グローバル・リソース・マネジメント	24	21	87.5%	15	13	86.7%
複合領域型 (安全安心)	M01	東北大学	グローバル安全学トップリーダー育成プログラム	50	49	98.0%	18	16	88.9%
	M02	高知県立大学	災害看護グローバルリーダー養成プログラム	11	11	100.0%	12	11	91.7%
複合領域型 (横断的テーマ)	N01	名古屋大学	フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム	57	53	93.0%	23	15	65.2%
	N02	早稲田大学	リーディング理工学博士プログラム	40	40	100.0%	11	10	90.9%
オンリーワン型	O01	秋田大学	レアメタル等資源ニューフロンティアリーダー養成プログラム	14	14	100.0%	14	10	71.4%
	O02	山形大学	フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院	20	20	100.0%	13	13	100.0%
	O03	千葉大学	免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム	28	28	100.0%	17	14	82.4%
	O04	東京大学	数物フロンティア・リーディング大学院	117	113	96.6%	12	10	83.3%
	O05	長崎大学	熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム	28	27	96.4%	9	8	88.9%
平成24年度採択プログラム総計				975	940	<b>96.4%</b>	362	291	<b>80.4%</b>

注) ・学生の対象者には休学中の者を含む。

- ・プログラム担当者（プログラム責任者、プログラムコーディネーターを除く）のうち3割程度を博士課程教育リーディングプログラム委員会事務局により無作為に抽出し、回答の対象者とした。

博士課程教育リーディングプログラム

**学生アンケート調査**

- この調査は博士課程教育リーディングプログラム（注）に採択されたプログラムに参加する皆さん（大学により各プログラムに選抜された学生）にご意見をうかがうものです。各プログラムの評価・改善に役立てると同時に、文部科学省の施策の検討の参考とします。
- いただいた回答はすべて統計的に処理され、個人についての情報が他の目的で使われることはありません。調査結果については、プログラムの改善に資するため、記入した個人が特定されないよう固有名詞の削除や複数の類似意見の統合などの処理を行った上で、当該大学に対し評価終了後に情報提供を行うとともに、集計結果を個人等が特定されない範囲で公表することもあります。
- この調査の実施は、各大学の協力のもとに、文部科学省の指導の下、独立行政法人日本学術振興会が Transbird 株式会社に委託して行います。  
＜日本学術振興会 個人情報保護規程＞  
[http://www.jsps.go.jp/j-kojinjoho/data/filebo\\_2005/kitei.pdf](http://www.jsps.go.jp/j-kojinjoho/data/filebo_2005/kitei.pdf)

注 ＜博士課程教育リーディングプログラムとは＞

優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院（リーディング大学院）の形成を推進する事業です。

- 回答は URL を通じてください → <http://www.tb-q.com/jsps2015/worksheet.php>
- **5月28日まで**にご回答ください
- 本アンケートに関するお問い合わせ先  
Transbird 株式会社（トランスバード株式会社）担当者：太田・大沼  
Email : jsps-q@transbird.com

**参加されているプログラムと、御自身についてうかがいます**

問1 参加している大学・プログラム名。表示されている内容を確認してください。

全体

問2 年齢、性別についてご記入ください。

年齢	1. 24歳以下	2. 25～29歳	3. 30歳代	4. 40歳代以上
	365人 (38.8%)	493人 (52.4%)	76人 (8.1%)	6人 (0.6%)
性別	1. 女性	2. 男性		
	199人 (21.2%)	741人 (78.8%)		

問3 プログラムとの関係（それぞれ一つを選択）

プログラムに参加した年	1. 2012 (平成24) 年度	2. 2013 (平成25) 年度	3. 2014 (平成26) 年度	4. 2015 (平成27) 年度
	172人 (18.3%)	374人 (39.8%)	391人 (41.6%)	3人 (0.3%)

現在の学年	1. 大学院1年次 (M1)	2. 大学院2年次 (M2)	3. 大学院3年次 (D1)	4. 大学院4年次 (D2)	5. 大学院5年次 (D3)
	18人 (1.9%)	332人 (35.3%)	283人 (30.1%)	180人 (19.1%)	97人 (10.3%)
	6. 大学院6年次以上	7. 医歯薬学又は獣医学系1年次	8. 医歯薬学又は獣医学系2年次	9. 医歯薬学又は獣医学系3年次	10. 医歯薬学又は獣医学系4年次以上
	7人 (0.7%)	0人 (0%)	12人 (1.3%)	8人 (0.9%)	3人 (0.3%)

入学時からこのプログラムに参加したか	1. 大学院入学と同時に参加	2. 大学院入学後1年以内に参加	3. 大学院入学後2年目以降に参加
	406人 (43.2%)	337人 (35.9%)	196人 (20.9%)

学位論文の執筆を予定している分野	1. 総合系 (情報学、環境学、複合領域)	2. 人文社会系 (総合人文社会、人文学、社会科学)	3. 理工系 (総合理工、数物系科学、化学、工学)	4. 生物系 (総合生物、生物学、農学・獣医学、医歯薬系)	5. その他
	32人 (3.4%)	98人 (10.4%)	632人 (67.2%)	150人 (16%)	28人 (3%)

5. その他 (自由記述)

問4 あなたの経歴についてあてはまるものすべてにチェックしてください

1	同じ大学を卒業	566人 (60.2%)	5	社会人を経験	81人 (8.6%)
2	留学生	167人 (17.8%)	6	現在も在職中	16人 (1.7%)
3	他の大学の学部を卒業	278人 (29.6%)	7	在職中だが、休職中	9人 (1%)
4	他の大学院を経験、卒業	40人 (4.3%)			

問5 あなたの指導教員 (専門分野における研究指導を主に行う教員1名) と、プログラムとの関係 (あてはまるものに○)

1	指導教員がいる — その指導教員がプログラムにも所属	554人 (58.9%)
2	指導教員がいる — その指導教員はプログラムには所属していない	383人 (40.7%)
3	それ以外	3人 (0.3%)

3. それ以外 (自由記述)



## プログラムでの実施状況について感想をうかがいます

問7 このプログラムで、下のような指導を受けましたか。また受けた場合、それは有効ですか。

	よく受けたか			有効か				番号
	よく受けた	ある程度受けた	受けていない	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない	
指導教員以外の教員からの指導	401人 (42.7%)	451人 (48%)	88人 (9.4%)	486人 (57%)	326人 (38.3%)	35人 (4.1%)	5人 (0.6%)	①
企業、政府機関など学外者からの指導、助言	193人 (20.5%)	408人 (43.4%)	339人 (36.1%)	298人 (49.6%)	260人 (43.3%)	40人 (6.7%)	3人 (0.5%)	②
主専攻以外の分野の授業等の履修	451人 (48%)	432人 (46%)	57人 (6.1%)	361人 (40.9%)	420人 (47.6%)	95人 (10.8%)	7人 (0.8%)	③
研究室ローテーション ※名称は問わない	245人 (26.1%)	208人 (22.1%)	487人 (51.8%)	242人 (53.4%)	178人 (39.3%)	29人 (6.4%)	4人 (0.9%)	④
プロジェクト形式による授業や課題	422人 (44.9%)	340人 (36.2%)	178人 (18.9%)	379人 (49.7%)	316人 (41.5%)	60人 (7.9%)	7人 (0.9%)	⑤
メンター等による授業外のサポート	269人 (28.6%)	371人 (39.5%)	300人 (31.9%)	292人 (45.6%)	274人 (42.8%)	65人 (10.2%)	9人 (1.4%)	⑥
産業界、官界、NPO、国際機関など、教育研究機関以外へのキャリアパス具体化のための情報提供例：産学共同研究、産業界等の講師を招いたセミナー等	333人 (35.4%)	422人 (44.9%)	185人 (19.7%)	353人 (46.8%)	323人 (42.8%)	69人 (9.1%)	10人 (1.3%)	⑦

上の理由や特に有効と思ったことがあれば自由に記述してください。

問8A. このプログラムで、下のようなことは整備され、経験していますか。またそれは有効に機能していますか。(それぞれ該当する回答をクリック)

	整備されている			有効か				番号
	十分に されている	ある程度 されている	不十分	有効	ある程度 有効	あまり有効 ではない	有効ではな い	
奨励金等大学からの金銭的支援	719人 (76.5%)	202人 (21.5%)	19人 (2%)	748人 (79.6%)	170人 (18.1%)	19人 (2%)	3人 (0.3%)	⑧
異分野の学生間で切磋琢磨できる環境 例：学生が交流するスペース、合同の セミナー等	488人 (51.9%)	381人 (40.5%)	71人 (7.6%)	461人 (49%)	344人 (36.6%)	96人 (10.2%)	39人 (4.1%)	⑨
外国人、職業人など、通常の大学院で は接触しにくい人との交流の機会	471人 (50.1%)	389人 (41.4%)	80人 (8.5%)	475人 (50.5%)	341人 (36.3%)	91人 (9.7%)	33人 (3.5%)	⑩


上の理由や特に有効と思ったことがあれば自由に記述してください。

問8B. このプログラムの枠によって、下のことを経験しましたか、また経験した場合それは有効でしたか。

	経験したか			参加した場合、有効か				番号
	参加した	これから 参加	参加の 経験・予定 はない	有効	ある程度 有効	あまり有効 ではない	有効ではな い	
国内の民間企業又は官庁、国際機関等 へのインターンシップ（1年以上）	129人 (13.7%)	360人 (38.3%)	451人 (48%)	108人 (83.7%)	18人 (14%)	3人 (2.3%)	0人 (0%)	⑪
海外の民間企業又は官庁、国際機関等 へのインターンシップ（1年以上）	69人 (7.3%)	386人 (41.1%)	485人 (51.6%)	63人 (91.3%)	5人 (7.2%)	0人 (0%)	1人 (1.4%)	⑫
本プログラムの中での留学 （3ヶ月未満）	208人 (22.1%)	279人 (29.7%)	453人 (48.2%)	176人 (84.6%)	28人 (13.5%)	4人 (1.9%)	0人 (0%)	⑬
本プログラムの中での留学 （3ヶ月以上1年未満）	37人 (3.9%)	340人 (36.2%)	563人 (59.9%)	36人 (97.3%)	1人 (2.7%)	0人 (0%)	0人 (0%)	⑭
本プログラムの中での留学 （1年以上）	9人 (1%)	106人 (11.3%)	825人 (87.8%)	9人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	⑮

上の理由や特に有効と思ったことがあれば自由に記述してください。

問9 このプログラムによって、下のような能力は身についたと思いますか。また、身についた場合は問7～8Bのどの活動によって主に身についたと思いますか。(問7～8Bの該当する「番号」を全て入力してください)

	非常に身についた	ある程度身についた	あまり身についていない	身についていない	身についた場合、それに寄与したプログラムの活動
高度な専門的知識・研究能力	282人 (30%)	425人 (45.2%)	188人 (20%)	45人 (4.8%)	
高い国際性	293人 (31.2%)	415人 (44.1%)	191人 (20.3%)	41人 (4.4%)	
専門以外の分野の幅広い知識	330人 (35.1%)	479人 (51%)	110人 (11.7%)	21人 (2.2%)	
物事を俯瞰し本質を見抜く力	283人 (30.1%)	438人 (46.6%)	189人 (20.1%)	30人 (3.2%)	
自ら課題を発見し解決に挑む力	325人 (34.6%)	430人 (45.7%)	163人 (17.3%)	22人 (2.3%)	
独創的な能力	218人 (23.2%)	394人 (41.9%)	295人 (31.4%)	33人 (3.5%)	
チームのマネージメント力	262人 (27.9%)	363人 (38.6%)	234人 (24.9%)	81人 (8.6%)	
企画立案、関係者との調整、統率する能力	250人 (26.6%)	366人 (38.9%)	231人 (24.6%)	93人 (9.9%)	
他者と協働する力	374人 (39.8%)	416人 (44.3%)	94人 (10%)	56人 (6%)	
その他(具体的に: )	37人 (77.1%)	9人 (18.8%)	1人 (2.1%)	1人 (2.1%)	

	① 指導教員以外の教員からの指導	② 企業、政府機関など 学外者からの指導	③ 主専攻以外の分野の 授業等の履修	④ 研究室ローテーション	⑤ プロジェクト形式による 授業や課題	⑥ メンター等による 授業外のサポート	⑦ 産業界、官界、NPO、国際機関 など、教育研究機関以外へのキャリ アパス具体化のための情報提供	⑧ 奨励金等大学からの金銭的支援	⑨ 異分野の学生間で 切磋琢磨できる環境	⑩ 外国人、職人など、通常の大学 院では接触しにくい人との交流の 機会	⑪ 国内の民間企業又は官庁、 国際機関等へのインターシッ プ(1年以上)	⑫ 海外の民間企業又は官庁、 国際機関等へのインターシッ プ(1年以上)	⑬ 本プログラムの中の留学 (3ヶ月未満)	⑭ 本プログラムの中での留学 (3ヶ月以上1年未満)	⑮ 本プログラムの中での留学 (1年以上)
高度な専門的知識・研究能力	403人	120人	198人	154人	149人	71人	36人	105人	118人	72人	27人	23人	56人	37人	12人
高い国際性	123人	83人	142人	41人	121人	29人	74人	71人	169人	325人	21人	54人	147人	52人	16人
専門以外の分野の幅広い知識	303人	189人	490人	187人	242人	71人	113人	48人	279人	132人	34人	13人	37人	12人	8人
物事を俯瞰し本質を見抜く力	264人	175人	243人	100人	272人	78人	118人	37人	225人	148人	28人	16人	42人	23人	8人
自ら課題を発見し解決に挑む力	232人	115人	168人	107人	353人	66人	62人	53人	193人	113人	34人	24人	54人	23人	8人
独創的な能力	193人	97人	181人	106人	225人	58人	61人	51人	199人	111人	25人	16人	51人	18人	10人
チームのマネージメント力	108人	78人	78人	63人	371人	45人	50人	26人	259人	91人	27人	16人	38人	13人	11人
企画立案、関係者との調整、統率する能力	118人	92人	87人	70人	350人	69人	61人	27人	232人	98人	35人	17人	44人	18人	9人
他者と協働する力	120人	81人	113人	112人	413人	62人	52人	32人	372人	147人	36人	24人	62人	23人	12人
その他	18人	13人	15人	7人	17人	11人	10人	7人	28人	16人	3人	2人	12人	3人	0人

問10 以下のような点について、どう考えていますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない
プログラムに参加する教員の間でプログラムについての理解が共有されている	250人 (26.6%)	415人 (44.1%)	217人 (23.1%)	58人 (6.2%)
一部の教員に負担が集中している	140人 (14.9%)	400人 (42.6%)	349人 (37.1%)	51人 (5.4%)
指導教員や研究室スタッフを含め、プログラムに参加していない教員等はプログラムの目的を理解し、あなたがプログラムに参加することに協力的である	304人 (32.3%)	458人 (48.7%)	144人 (15.3%)	34人 (3.6%)
学術研究だけではなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を作り出す可能性が大きい	367人 (39%)	446人 (47.4%)	109人 (11.6%)	18人 (1.9%)
後輩にもこのプログラムを勧めたい	386人 (41.1%)	434人 (46.2%)	98人 (10.4%)	22人 (2.3%)

問11 以下のような点について、どう考えていますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない
このプログラムによって自身の研究に新たな示唆・知見が得られた（得られそうである）	450人 (47.9%)	374人 (39.8%)	98人 (10.4%)	18人 (1.9%)
所属研究室での指導と、このプログラムでの指導が二重負担になっている	104人 (11.1%)	267人 (28.4%)	410人 (43.6%)	159人 (16.9%)
所属研究室において、自分の専門的な研究を進めて、業績を上げられるか不安がある	141人 (15%)	329人 (35%)	315人 (33.5%)	155人 (16.5%)
修了後の進路に不安がある	164人 (17.4%)	333人 (35.4%)	276人 (29.4%)	167人 (17.8%)





問13 プログラムへの参加によって、あなたの人生観、職業観、世界観、国際意識などがどのように変わったかを自由に記入してください。

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。（ はい ・ いいえ ）

問14 産学官民（※）にわたりグローバルに活躍するリーダーとなるために、所属するプログラムにおいてあなたが主体的に行った活動、及びその成果について自由にアピールしてください。

（※「民」とは、NGO、NPOなど公共的サービスの提供主体を指します。）

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。（ はい ・ いいえ ）

## 全般的なご意見をうかがいます

問15 あなたが参加するプログラムについて、あなたの将来に向けてこのプログラムがどう役立っているか、又はどのように改善してほしいかも含め、感想、ご意見を自由に記入してください。

(例)

- ・メンターやメンターの人的ネットワークを通じた様々な交流から刺激を受けている
- ・プログラムと所属専攻それぞれの履修要件を満たす必要があるためコースワークの負担が大きい など

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。 ( はい ・ いいえ )

## (参考情報) よろしければご協力ください

問16 あなたはこのプログラムをどのようにして知りましたか (任意回答・あてはまるもの全てに○)

1	参加プログラムのホームページ	266人 (28.5%)
2	文部科学省のホームページ	18人 (1.9%)
3	日本学術振興会のホームページ	21人 (2.3%)
4	参加プログラムのリーフレット等	176人 (18.9%)
5	大学で行われた説明会・シンポジウム等	526人 (56.4%)
6	大学以外の場で行われた説明会・シンポジウム等	14人 (1.5%)
7	新聞、雑誌等の公告	5人 (0.5%)

8	プログラム担当者の教員	433人 (46.5%)
9	プログラム担当者以外の教員	164人 (17.6%)
10	学内の友人・知人	243人 (26.1%)
11	学外の友人・知人	15人 (1.6%)
12	Facebook等のSNS	14人 (1.5%)
13	その他(具体的に: )	33人 (3.5%)

調査項目はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

## 担当者アンケート調査

- この調査は博士課程教育リーディングプログラム（注）に採択されたプログラムを担当しておられる大学院教員の方、および学外から協力いただいている方にご意見をうかがうものです。各プログラムの評価・改善に役立てると同時に、文部科学省の施策の検討の参考とします。
- いただいた回答はすべて統計的に処理され、個人についての情報が他の目的で使われることはありません。調査結果については、プログラムの改善に資するため、記入した個人が特定されないよう固有名詞の削除や複数の類似意見の統合などの処理を行った上で、当該大学に対し評価終了後に情報提供を行うとともに、集計結果を個人等が特定されない範囲で公表することもあります。
- この調査の実施は、各大学の協力のもとに、文部科学省の指導の下、独立行政法人日本学術振興会が Transbird 株式会社に委託して行います。  
＜日本学術振興会 個人情報保護規程＞  
[http://www.jsps.go.jp/j-kojinjoho/data/filebo\\_2005/kitei.pdf](http://www.jsps.go.jp/j-kojinjoho/data/filebo_2005/kitei.pdf)

注 ＜博士課程教育リーディングプログラムとは＞

優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院（リーディング大学院）の形成を推進する事業です。

- 回答は URL を通じてください → <http://www.tb-q.com/jsps/worksheet.php>
- **5月28日まで**にご回答ください
- 本アンケートに関するお問い合わせ先  
Transbird 株式会社（トランスバード株式会社）担当者：太田・大沼  
Email：jsps-q@transbird.com

## 担当されているプログラムと、御自身についてうかがいます

問1 担当している大学・プログラム名。表示されている内容を確認してください。

全体

問2 年齢、性別についてご記入ください。

年齢	1. 20・30歳代	2. 40歳代	3. 50歳代	4. 60歳代以上
	12人 (4.1%)	60人 (20.6%)	146人 (50.2%)	73人 (25.1%)

性別	1. 女性	2. 男性
	29人 (10%)	262人 (90%)

問3 プログラムとの関係（それぞれ一つを選択）

プログラムに参加した年 【複数選択】	1. 2012 (平成24) 年度	2. 2013 (平成25) 年度	3. 2014 (平成26) 年度	4. 2015 (平成27) 年度
	182人 (62.5%)	227人 (78%)	250人 (85.9%)	231人 (79.4%)

エフォート申請書に記載されたもの 【単一選択】	1. 1割未満	2. 1割以上2割未満	3. 2割以上3割未満	4. 3割以上4割未満	5. 4割以上5割未満
	93人 (32%)	103人 (35.4%)	28人 (9.6%)	5人 (1.7%)	2人 (0.7%)
	6. 5割以上6割未満	7. 6割以上7割未満	8. 7割以上8割未満	9. 8割以上9割未満	10. 9割以上
	1人 (0.3%)	0人 (0%)	2人 (0.7%)	0人 (0%)	2人 (0.7%)
	11. 採択された後にプログラム担当者になった				
	55人 (18.9%)				

エフォート平成26年度の実績 【単一選択】	1. 1割未満	2. 1割以上2割未満	3. 2割以上3割未満	4. 3割以上4割未満	5. 4割以上5割未満
	141人 (48.5%)	95人 (32.6%)	26人 (8.9%)	8人 (2.7%)	4人 (1.4%)
	6. 5割以上6割未満	7. 6割以上7割未満	8. 7割以上8割未満	9. 8割以上9割未満	10. 9割以上
	1人 (0.3%)	2人 (0.7%)	2人 (0.7%)	2人 (0.7%)	10人 (3.4%)

本プログラムの学生に直接に接する頻度 【単一選択】	1. 日常的	2. 週に1回程度	3. 月に1~2回程度	4. 年に1回~数回	5. 直接には接しない
	92人 (31.6%)	51人 (17.5%)	39人 (13.4%)	83人 (28.5%)	26人 (8.9%)

所属（本務） 【単一選択】	1. 当該大学院・参画研究科・専攻等（プログラムの経費により雇用されている者を除く）	2. 当該大学院・参画研究科・専攻等（プログラムの経費による雇用）	3. 当該大学（1、2以外）	4. 他大学	5. 研究機関	
	201人 (69.1%)	16人 (5.5%)	26人 (8.9%)	10人 (3.4%)	10人 (3.4%)	
	6. 民間企業	7. 政府・自治体	8. 国際機関	9. その他		
	20人 (6.9%)	3人 (1%)	1人 (0.3%)	4人 (1.4%)		

9. その他（自由記述）

問4 このプログラムではどのようなことを担当されていますか(あてはまる項目すべてをクリック)

1	単独で講義を担当	100人 (34.4%)	7	学生募集・入学者選抜	104人 (35.7%)
2	単独で演習を担当	28人 (9.6%)	8	就職支援	14人 (4.8%)
3	協同講義、演習への参加	123人 (42.3%)	9	プログラムの企画、カリキュラムの作成	111人 (38.1%)
4	個別学生の研究指導	131人 (45%)	10	インターンシップ	52人 (17.9%)
5	学生のメンター	82人 (28.2%)	11	広報	37人 (12.7%)
6	留学プログラム	23人 (7.9%)	12	その他(具体的に： )	54人 (18.6%)

## プログラムの実施状況について感想をうかがいます

問5 このプログラムで、先生は下のような指導を行われていますか。また、行っている場合はそれは有効ですか。(それぞれ該当する回答をクリック)

	行っている			有効か			
	よく行っている	行っている	行っていない	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
指導学生以外の学生への指導	30人 (10.3%)	127人 (43.6%)	134人 (46%)	76人 (48.4%)	80人 (51%)	1人 (0.6%)	0人 (0%)
主専攻以外の分野の学生を対象とした授業等	36人 (12.4%)	124人 (42.6%)	131人 (45%)	79人 (49.4%)	77人 (48.1%)	3人 (1.9%)	1人 (0.6%)
研究室ローテーションの受け入れ ※名称は問わない	23人 (7.9%)	63人 (21.6%)	205人 (70.4%)	44人 (51.2%)	40人 (46.5%)	2人 (2.3%)	0人 (0%)
プロジェクト形式による授業や課題	27人 (9.3%)	98人 (33.7%)	166人 (57%)	78人 (62.4%)	45人 (36%)	2人 (1.6%)	0人 (0%)
メンター等としての授業外のサポート	29人 (10%)	116人 (39.9%)	146人 (50.2%)	73人 (50.3%)	66人 (45.5%)	6人 (4.1%)	0人 (0%)

問6 このプログラムで、下のようなことは実施、あるいは整備されていますか。また1～3を選択した場合、それは有効に機能していますか。(それぞれ該当する回答をクリック)

	整備されているか				有効か			
	十分にされている	ある程度されている	不十分	分からない	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
企業、政府機関など学外者からの指導	147人 (50.5%)	100人 (34.4%)	6人 (2.1%)	38人 (13.1%)	153人 (60.5%)	92人 (36.4%)	6人 (2.4%)	2人 (0.8%)
産業界、官界、NPO、国際機関など、教育研究機関以外へのキャリアパス具体化のための情報提供 (例：産学共同研究、産業界等の講師を招いたセミナー等)	158人 (54.3%)	84人 (28.9%)	7人 (2.4%)	42人 (14.4%)	163人 (65.5%)	78人 (31.3%)	5人 (2%)	3人 (1.2%)
奨励金等大学からの金銭的支援	172人 (59.1%)	63人 (21.6%)	12人 (4.1%)	44人 (15.1%)	192人 (77.7%)	50人 (20.2%)	4人 (1.6%)	1人 (0.4%)
異分野の学生間で切磋琢磨できる環境 (例：学生の交流スペース、合同のセミナー等)	191人 (65.6%)	71人 (24.4%)	9人 (3.1%)	20人 (6.9%)	191人 (70.5%)	73人 (26.9%)	5人 (1.8%)	2人 (0.7%)
外国人、職業人など、通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会	193人 (66.3%)	80人 (27.5%)	3人 (1%)	15人 (5.2%)	197人 (71.4%)	76人 (27.5%)	1人 (0.4%)	2人 (0.7%)
国内の民間企業又は官庁、国際機関等へのインターンシップ (1月以上)	126人 (43.3%)	85人 (29.2%)	14人 (4.8%)	66人 (22.7%)	145人 (64.4%)	68人 (30.2%)	8人 (3.6%)	4人 (1.8%)
海外の民間企業又は官庁、国際機関等へのインターンシップ (1月以上)	113人 (38.8%)	92人 (31.6%)	17人 (5.8%)	69人 (23.7%)	138人 (62.2%)	68人 (30.6%)	12人 (5.4%)	4人 (1.8%)
本プログラムの中での留学	96人 (33%)	88人 (30.2%)	20人 (6.9%)	87人 (29.9%)	139人 (68.1%)	51人 (25%)	11人 (5.4%)	3人 (1.5%)

問7 このプログラムは、学生に以下のような資質を身につけさせるのに、どの程度有効ですか。

	非常に有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
高度な専門的知識・研究能力	122人 (41.9%)	137人 (47.1%)	25人 (8.6%)	7人 (2.4%)
高い国際性	190人 (65.3%)	91人 (31.3%)	9人 (3.1%)	1人 (0.3%)
専門以外の分野の幅広い知識	190人 (65.3%)	92人 (31.6%)	7人 (2.4%)	2人 (0.7%)
物事を俯瞰し本質を見抜く力	141人 (48.5%)	130人 (44.7%)	17人 (5.8%)	3人 (1%)
自ら課題を発見し解決に挑む力	171人 (58.8%)	101人 (34.7%)	16人 (5.5%)	3人 (1%)
独創的な能力	100人 (34.4%)	148人 (50.9%)	39人 (13.4%)	4人 (1.4%)
チームのマネージメント力	142人 (48.8%)	126人 (43.3%)	21人 (7.2%)	2人 (0.7%)
企画立案、関係者との調整、統率する能力	144人 (49.5%)	127人 (43.6%)	18人 (6.2%)	2人 (0.7%)
他者と協働する力	176人 (60.5%)	102人 (35.1%)	10人 (3.4%)	3人 (1%)
その他（具体的に： ）	28人 (84.8%)	5人 (15.2%)	0人 (0%)	0人 (0%)

問8 運営・管理の面で、以下の点についてどう考えられていますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない
産業界、行政機関、NPO等によるプログラムへの参画と就職先の提供が行われている	94人 (32.3%)	155人 (53.3%)	40人 (13.7%)	2人 (0.7%)
学長のリーダーシップが発揮されている	73人 (25.1%)	147人 (50.5%)	62人 (21.3%)	9人 (3.1%)
コストを意識した運営がなされている	89人 (30.6%)	172人 (59.1%)	29人 (10%)	1人 (0.3%)
学内外へのプログラム内容や成果の広報が積極的に行われている	140人 (48.1%)	131人 (45%)	20人 (6.9%)	0人 (0%)



問9 以下の点について、どう考えられていますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない
プログラム担当者間でのプログラムについての理解の共有ができています	105人 (36.1%)	155人 (53.3%)	29人 (10%)	2人 (0.7%)
一部の教員に負担が集中している	46人 (15.8%)	135人 (46.4%)	101人 (34.7%)	9人 (3.1%)
プログラム担当者以外の教員の理解があり、協力的である	49人 (16.8%)	163人 (56%)	72人 (24.7%)	7人 (2.4%)
大学の執行部が、プログラムの目的を理解し、協力的である	91人 (31.3%)	181人 (62.2%)	15人 (5.2%)	4人 (1.4%)
優秀な学生が多数入学している	116人 (39.9%)	145人 (49.8%)	28人 (9.6%)	2人 (0.7%)
今後優秀な学生をより多く獲得できる	108人 (37.1%)	142人 (48.8%)	39人 (13.4%)	2人 (0.7%)
学生はプログラムの意図を良く理解している	128人 (44%)	146人 (50.2%)	17人 (5.8%)	0人 (0%)
学生にとって、将来の進路が明確になっている	54人 (18.6%)	174人 (59.8%)	58人 (19.9%)	5人 (1.7%)
学術研究だけでなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を作りだす見込みがある	143人 (49.1%)	133人 (45.7%)	14人 (4.8%)	1人 (0.3%)
このプログラムによって、大学院制度の改善に大きな示唆が得られている	90人 (30.9%)	151人 (51.9%)	44人 (15.1%)	6人 (2.1%)
このプログラムが補助期間終了後も大学の独自財源により持続的に運営される見通しがある	41人 (14.1%)	141人 (48.5%)	89人 (30.6%)	20人 (6.9%)
これから進学を考えている学生にこのプログラムを勧めたい	135人 (46.4%)	127人 (43.6%)	25人 (8.6%)	4人 (1.4%)

## プログラムの改善のための方策についてうかがいます

問10-1 このプログラムにおいてあなたが担当する指導・支援方法の改善のため、学生等による評価やアンケート(紙面やパソコン上のデータとして記録・保存をしているもの)を行っていますか。下記から一つ選択してください。

1	担当する全ての役割等において実施している	41人 (14.1%)
2	担当する一部の役割等において実施している	116人 (39.9%)
3	実施していない	134人 (46%)

【1または2と回答した方のみお答えください】

問10-2 上記評価やアンケートの結果を踏まえ、具体的に改善を図った内容があれば、その内容についてお答えください。

問11 以下の点について、どう考えられていますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない
このプログラムによって学生自身の研究に新たな示唆・知見が得られる(得られそうである)	132人 (45.4%)	148人 (50.9%)	9人 (3.1%)	2人 (0.7%)
学生にとって、所属研究室での指導と、このプログラムでの指導が二重負担になっている	24人 (8.2%)	79人 (27.1%)	156人 (53.6%)	32人 (11%)
プログラムに参画している学生は所属研究室において専門的な研究を進めて、業績を上げられるか懸念がある	12人 (4.1%)	55人 (18.9%)	163人 (56%)	61人 (21%)
学生の将来の進路に不安がある	2人 (0.7%)	64人 (22%)	140人 (48.1%)	85人 (29.2%)

## 全般的なご意見をうかがいます

問12 この質問票でお尋ねした点、あるいは、それ以外にも、このプログラムについてお考えがあれば、ご意見を自由にお書きください

**調査項目はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。**